

武蔵野市地域福祉に関するアンケート調査の報告【速報版】

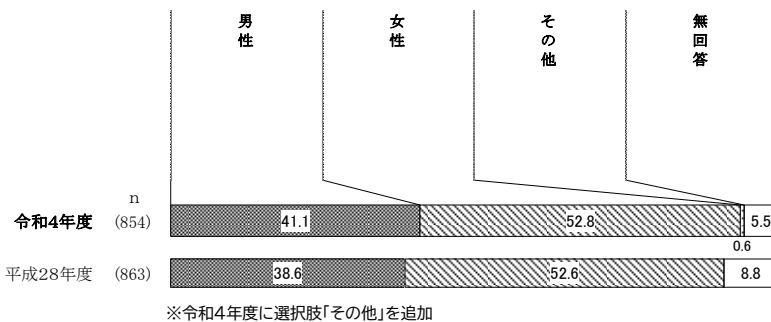
1 調査の概要

- ◇調査目的 令和5年度に地域福祉計画を策定するにあたり、その基礎資料を得るため、地域での活動や地域との関わり等、健康福祉施策全般に係る意見・要望等を把握する。
- ◇調査対象者 武蔵野市内に住所を有する18歳以上男女個人 2,000人
(令和4年10月1日時点、無作為抽出)
- ◇調査期間 令和4年11月30日から12月16日まで
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収またはWEB回答併用(督促を兼ねたお礼状を1回発送)
- ◇回収状況 配布数:2,000件 回収数:854件 回収率:42.7%(平成28年度調査:43.2%)
うち、WEB回収数:300件(回収数全体の35.1%)

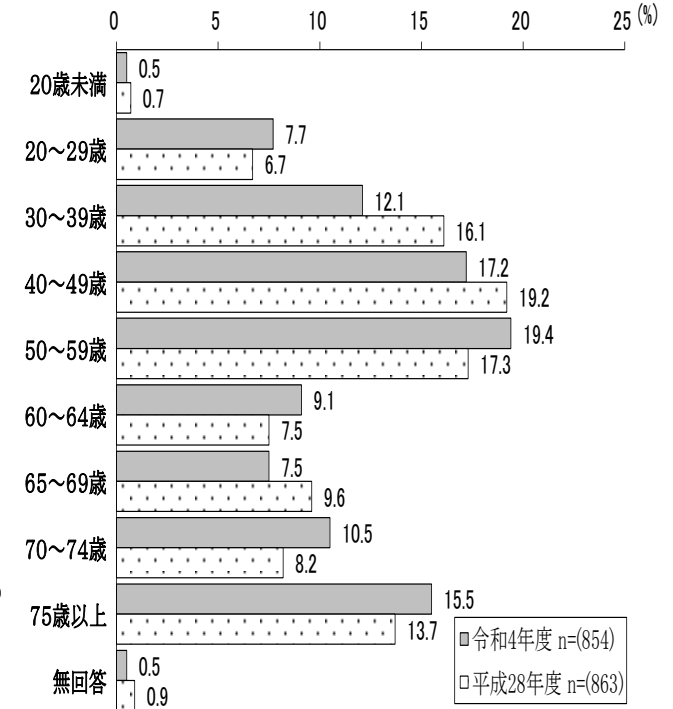
2 結果の概要

(1)回答者の属性等について

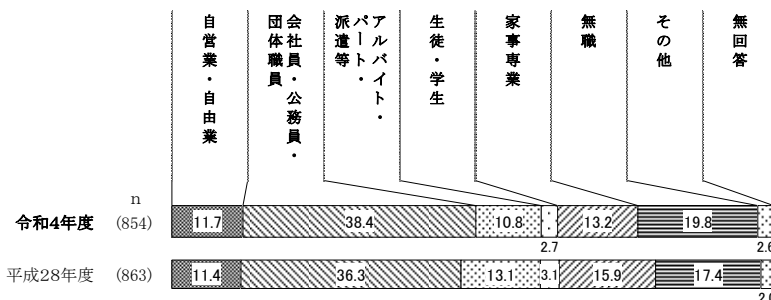
《性別》



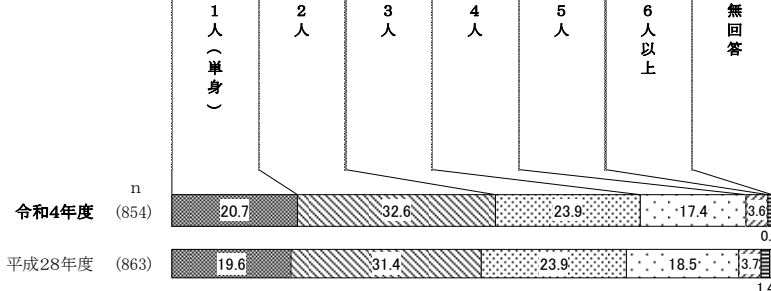
《年齢》



《職業》

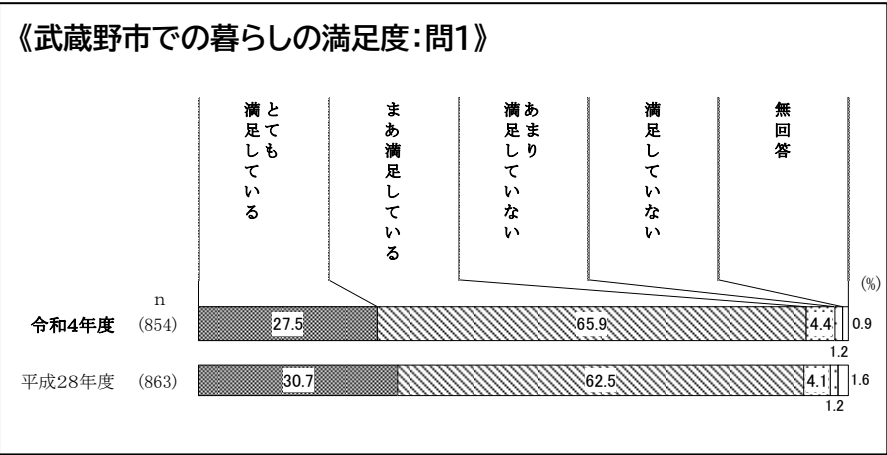


《世帯人数》

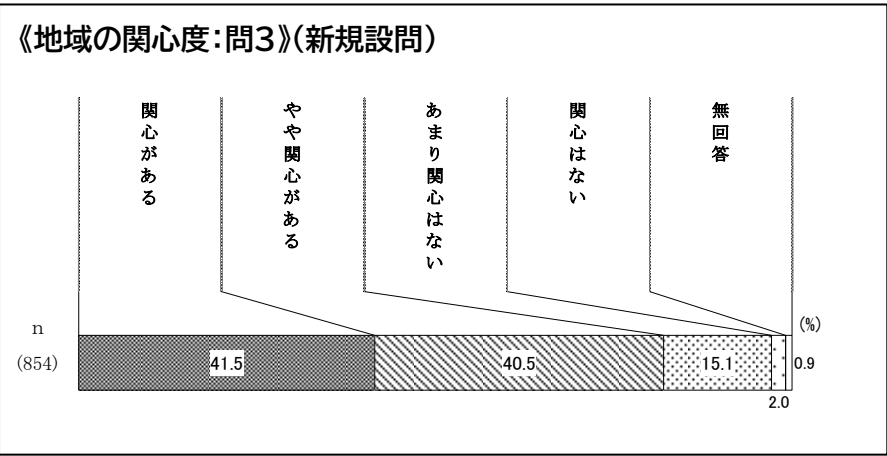


- ・回答者の性別では、「女性」が52.8%、「男性」が41.1%、「その他」が0.6%となっている。
- ・年齢では、「50～59歳」(19.4%)が最も多く、以下「40～49歳」(17.2%)、「75歳以上」(15.5%)と続いている。
- ・職業では、「会社員・公務員・団体職員」(38.4%)が最も多く、以下「無職」(19.8%)、「家事専業」(13.2%)と続いている。
- ・世帯人数では、「2人」(32.6%)が最も多く、以下「3人」(23.9%)、「1人(単身)」(20.7%)と続いている。

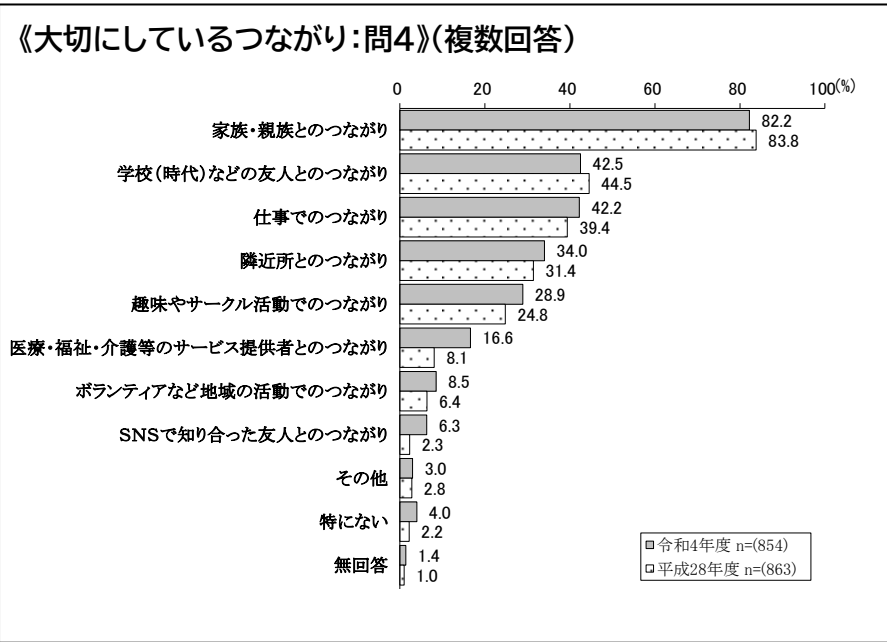
(2)地域での暮らしについて



・武蔵野市での暮らしの満足度では、「とても満足している」(27.5%)と「まあ満足している」(65.9%)を合わせた『満足』(93.4%)が9割を超える。

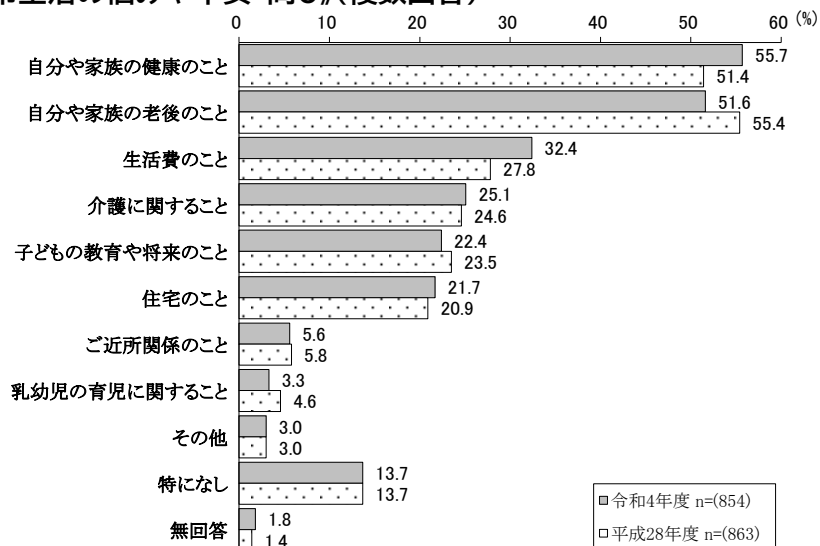


・地域の関心度では、「関心がある」(41.5%)と「やや関心がある」(40.5%)を合わせた『関心がある』(82.0%)が8割を超える。



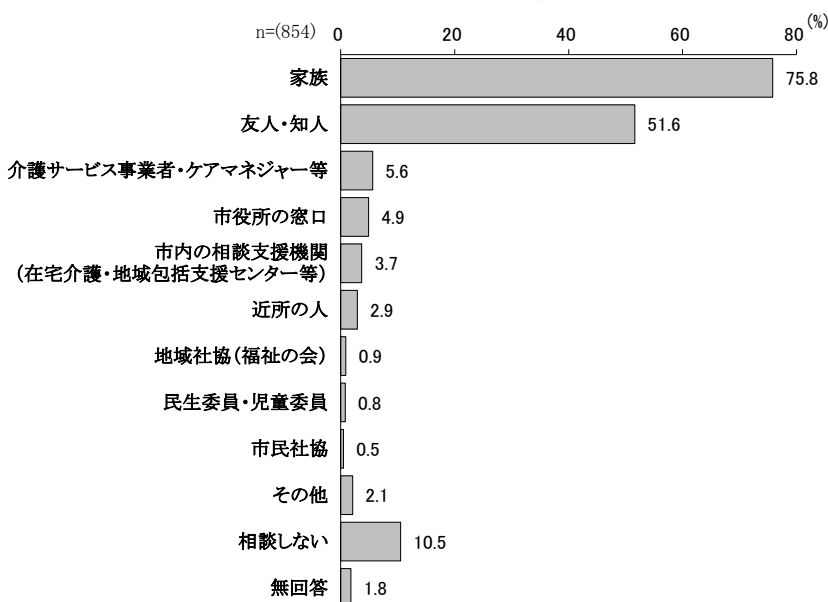
・大切にしているつながりでは、「家族・親族」が82.2%で突出しており、以下「学校(時代)などの友人」(42.5%)、「仕事」(42.2%)、「隣近所」(34.0%)、「趣味やサークル活動」(28.9%)と続いている。

《日常生活の悩みや不安:問6》(複数回答)



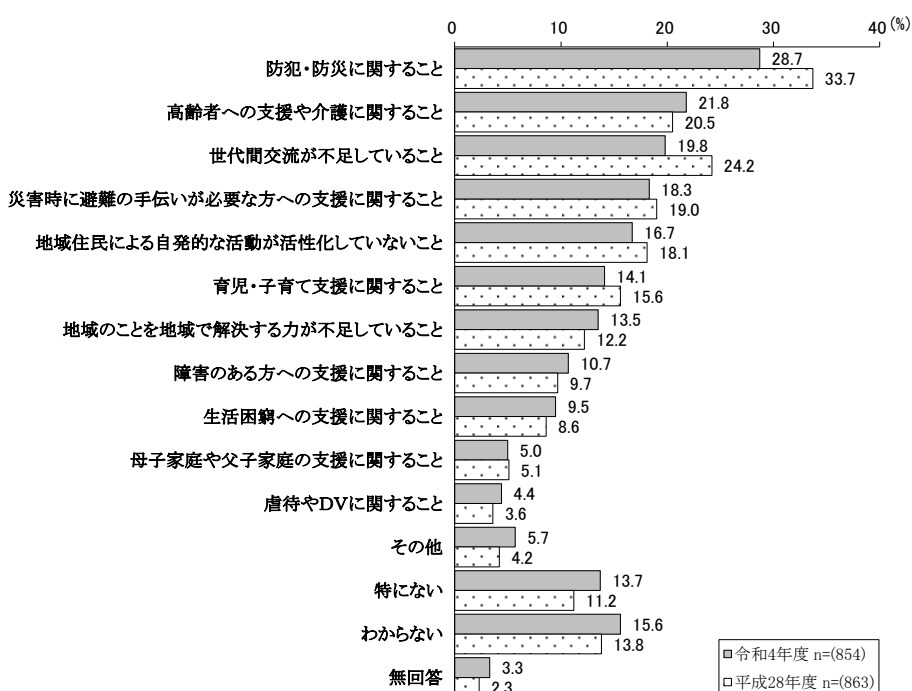
・日常生活の悩みや不安では、「自分や家族の健康のこと」(55.7%)と「自分や家族の老後のこと」(51.6%)が5割を超えており、以下「生活費のこと」(32.4%)「介護に関すること」(25.1%)と続いている。

《日常生活の悩みや不安の相談先:問7》(複数回答)(新規設問)



・日常生活の悩みや不安の相談先では、「家族」(75.8%)が最も多く、次に「友人・知人」(51.6%)となっている。一方、「相談しない」は10.5%となっている。

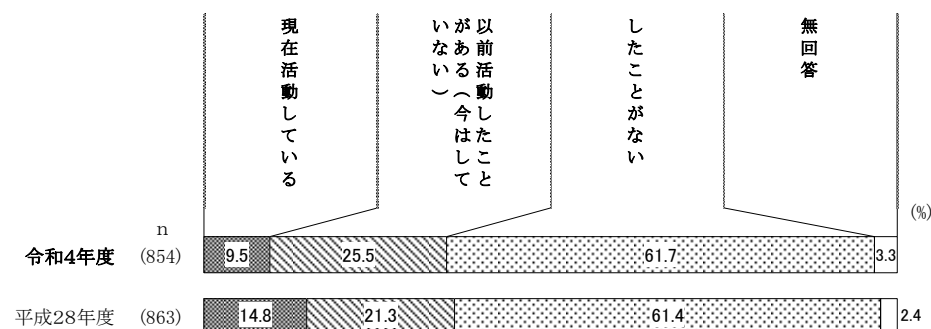
《地域における課題:問10》(複数回答)



・地域における課題では、「防犯・防災に関すること」(28.7%)が最も多く、以下「高齢者への支援や介護に関すること」(21.8%)、「世代間交流が不足していること」(19.8%)と続いている。

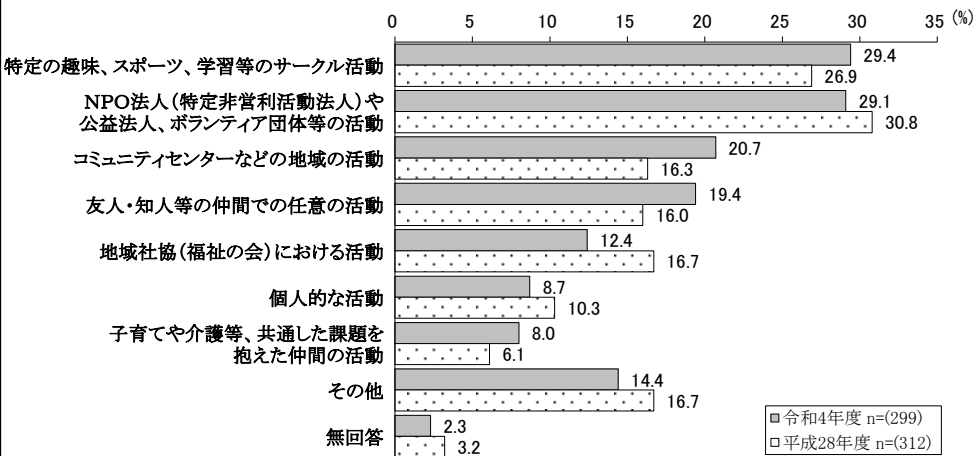
(3)地域活動やボランティア活動への参加状況について

《地域活動やボランティア活動への参加状況：問11》



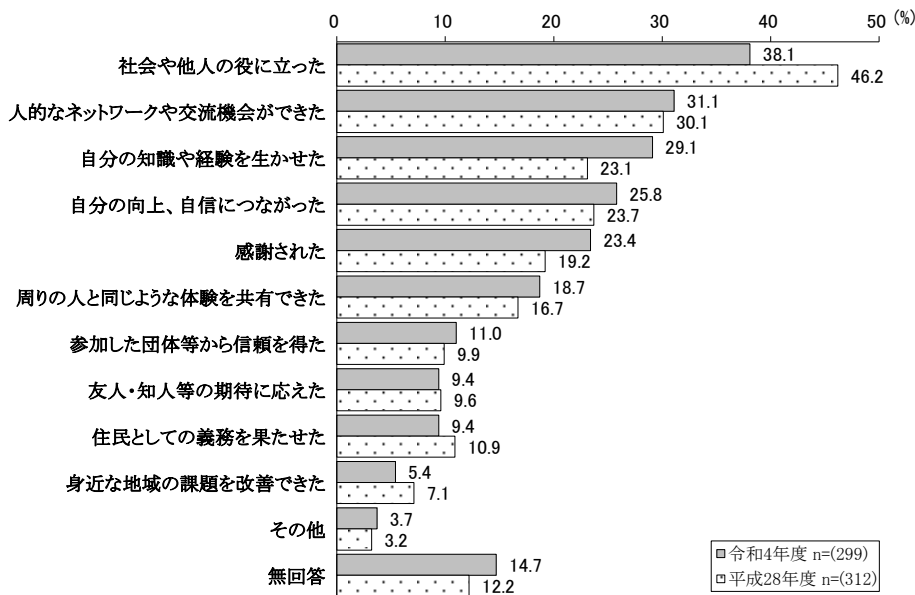
・地域活動やボランティア活動への参加状況では、「したことがない」(61.7%)が最も多い。一方、「現在活動している」(9.5%)と「以前活動したことがある(今はしていない)」(25.5%)を合わせて35.0%となっている。

《活動している組織、仲間：問11-1》(複数回答)



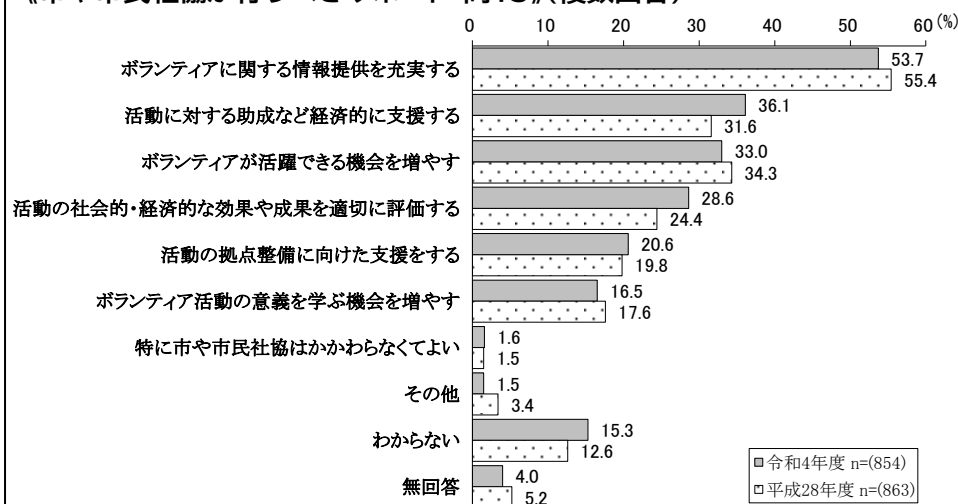
・活動している組織、仲間では、「特定の趣味、スポーツ、学習等のサークル活動」(29.4%)と「NPO法人(特定非営利活動法人)や公益法人、ボランティア団体等の活動」(29.1%)が多く、以下「コミュニティセンターなどの地域の活動」(20.7%)と続いている。

《活動に参加してよかったと思うこと：問11-5》(複数回答)



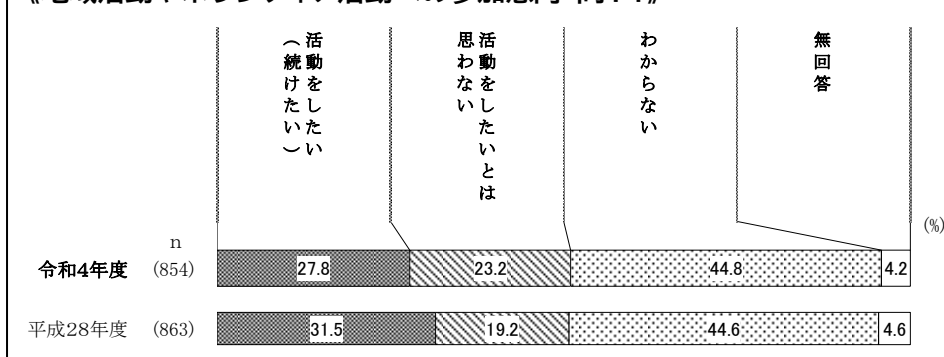
・活動に参加してよかったと思うことでは、「社会や他人の役に立った」(38.1%)が最も多く、以下「人的なネットワークや交流機会ができた」(31.1%)、「自分の知識や経験が生かした」(29.1%)と続いている。

《市や市民社協が行うべきサポート:問13》(複数回答)



・市や市民社協が行うべきサポートでは、「ボランティアに関する情報提供を充実する」(53.7%)が最も多く、以下「活動に対する助成など経済的に支援する」(36.1%)、「ボランティアが活躍できる機会を増やす」(33.0%)と続いている。

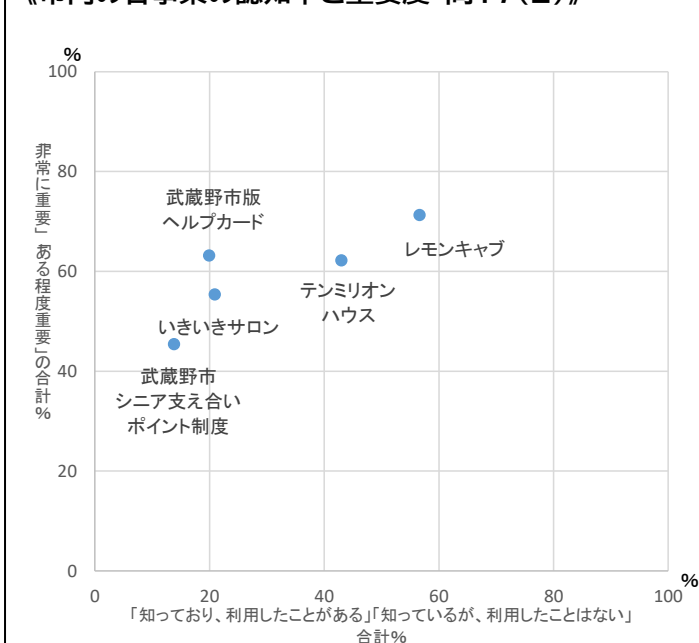
《地域活動やボランティア活動への参加意向:問14》



・地域活動やボランティア活動への参加意向では、「活動をした(続けたい)」が27.8%、「活動をしたとは思わない」が23.2%となっている。

(3)市や関係団体等が行っている事業について

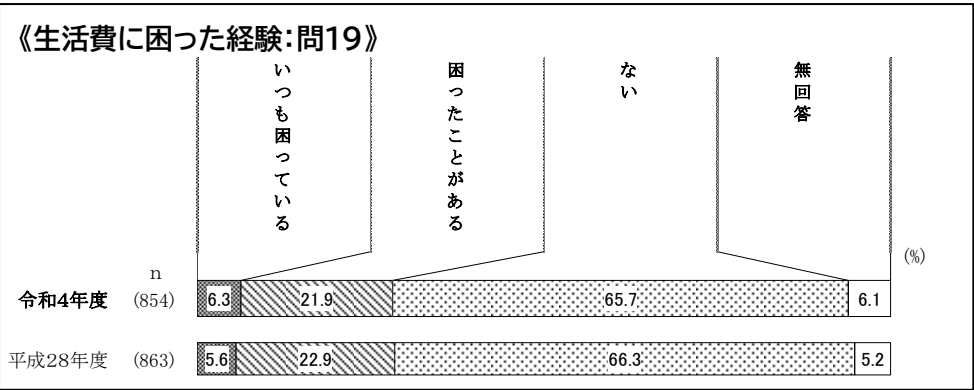
《市内の各事業の認知率と重要度:問17(2)》



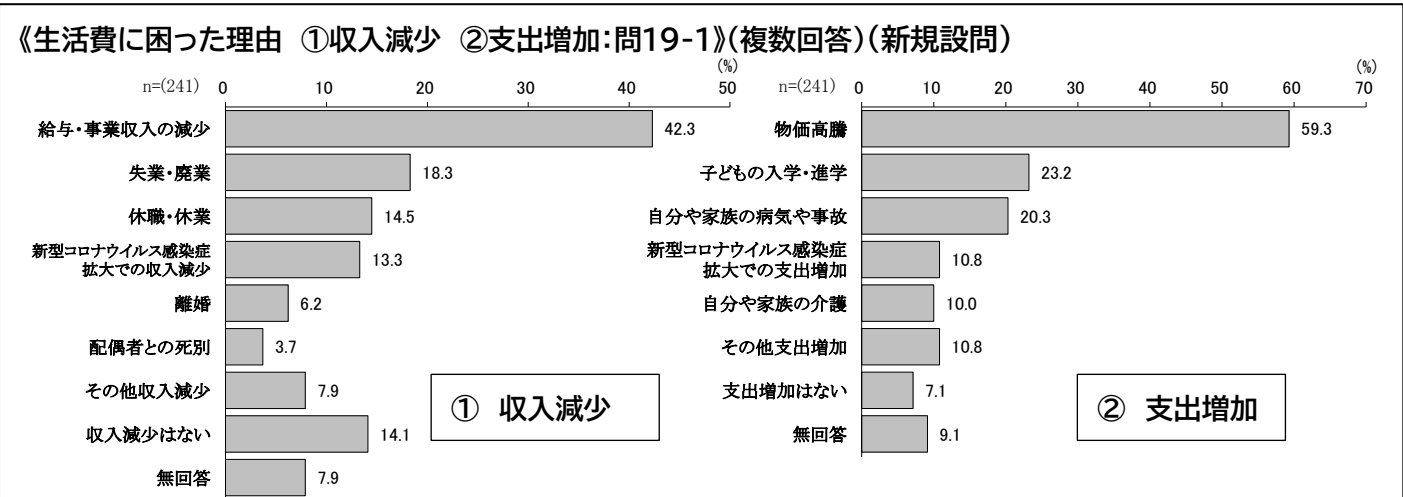
・市内の各事業の認知率では、「レモンキャブ」(56.6%)が最も多く、以下「テンミリオンハウス」(43.0%)、「いきいきサロン」(20.9%)と続いている。また重要度では、「レモンキャブ」(71.3%)が最も多く、以下「武蔵野市版ヘルプカード」(63.2%)、「テンミリオンハウス」(61.2%)の順となっている。

テンミリオンハウス : 地域での見守りが必要な高齢者に対して、地域の福祉団体等が昼食の提供や各種講座・イベントを行う通いの場
いきいきサロン : 概ね65歳以上の高齢者を対象に、週1回2時間程度で介護予防・認知症予防のための健康体操を含むプログラムを行う通いの場
レモンキャブ : バスやタクシーなど公共交通機関を利用することが困難な高齢者や障害のある方の外出を支援するための移送サービス
武蔵野市版ヘルプカード : 障害のある方などが緊急時や災害時、日常生活で困ったとき、周囲の方の配慮や手助けをお願いしやすくなるカード
武蔵野市シニア支え合いポイント制度 : 65歳以上の方の介護予防や健康寿命の延伸、社会参加・社会貢献活動への参加を促進することを目的に、一定要件を満たした活動への参加に対してポイントを付与し、たまったポイントを寄付やギフト券等に交換する制度

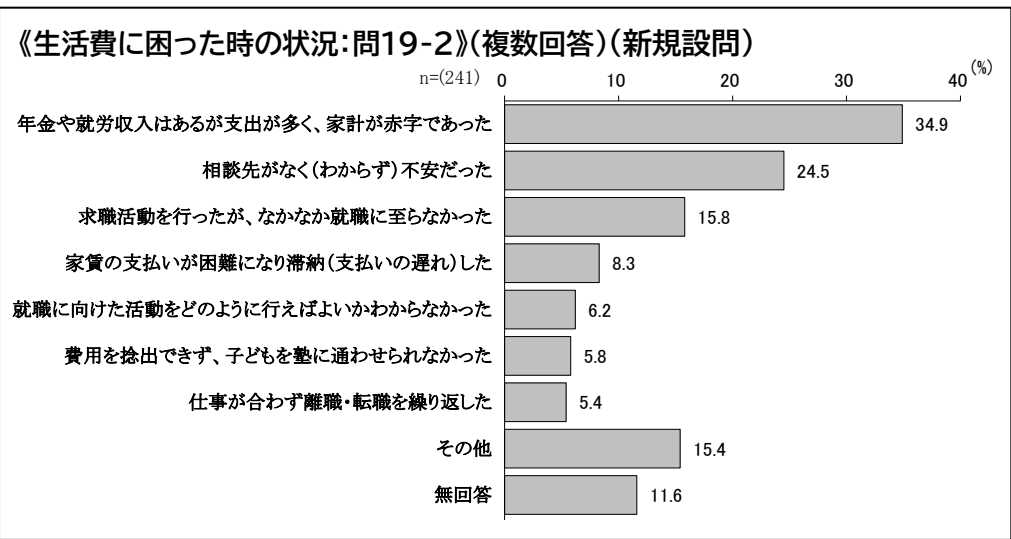
(4) 生計や生活の困窮状況について



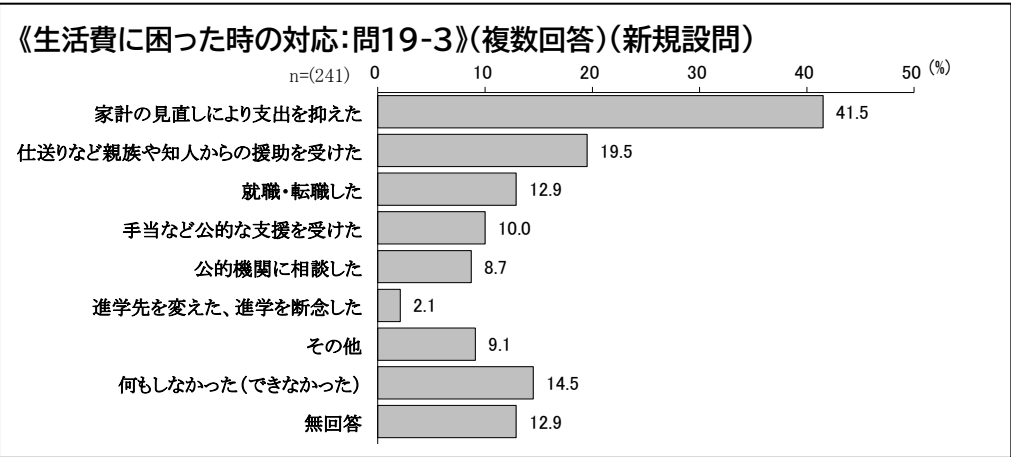
・生活費に困った経験では、「いつも困っている」(6.3%)と「困ったことがある」(21.9%)を合わせた『困った経験あり』は28.2%となっている。



・生活費に困った理由について、①収入減少では、「給与・事業収入の減少」(42.3%)が最も多く、以下「失業・廃業」(18.3%)、「休職・休業」(14.5%)の順となっている。一方、②支出増加では、「物価高騰」(59.3%)が最も多く、以下「子どもの入学・進学」(23.2%)、「自分や家族の病気や事故」(20.3%)の順となっている。



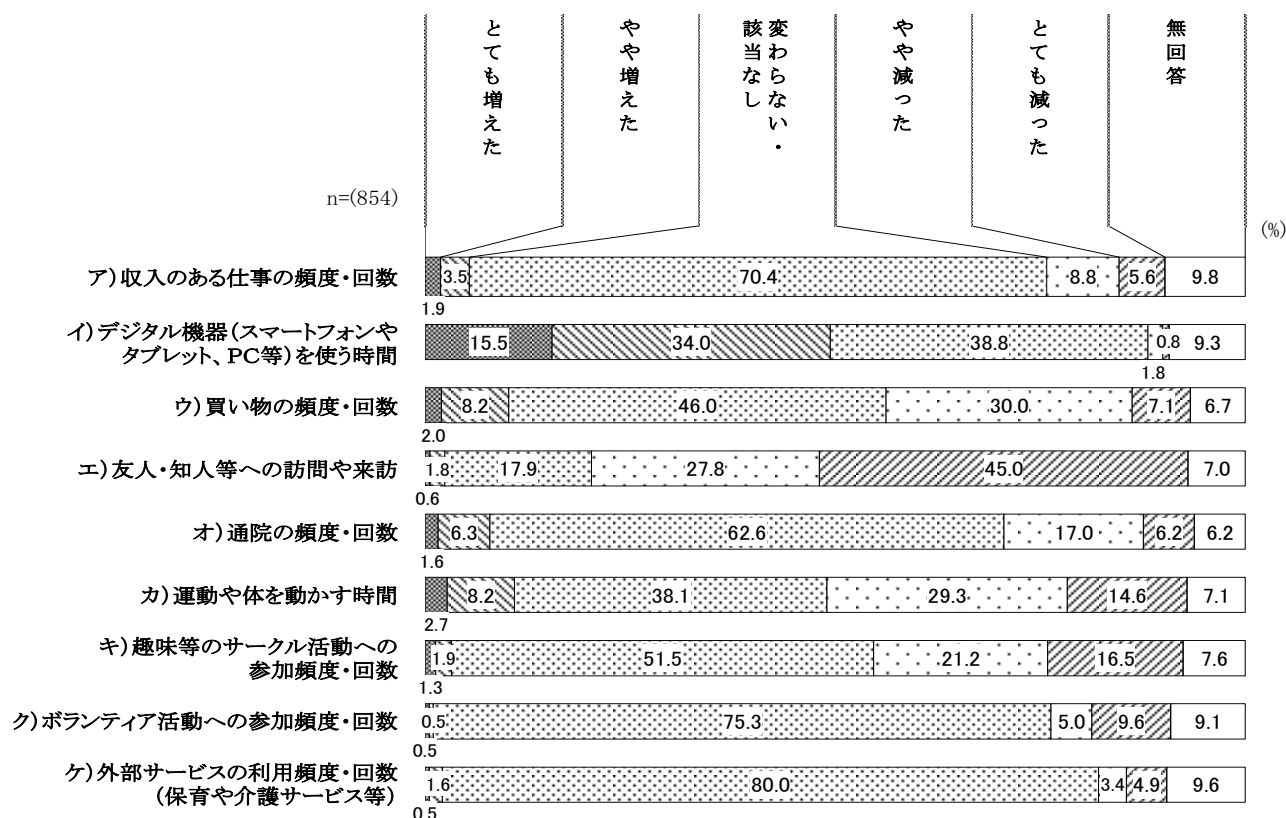
・生活費に困った時の状況では、「年金や就労収入はあるが支出が多く、家計が赤字であった」(34.9%)が最も多く、以下「相談先がなく(わからず)不安だった」(24.5%)、「求職活動を行ったが、なかなか就職に至らなかった」(15.8%)の順となっている。



・生活費に困った時の対応では、「家計の見直しにより支出を抑えた」(41.5%)が最も多く、次いで「仕送りなど親族や知人からの援助を受けた」(19.5%)となっている。一方、「何もしなかった(できなかった)」は14.5%となっている。

(5)新型コロナウイルス感染症による影響について

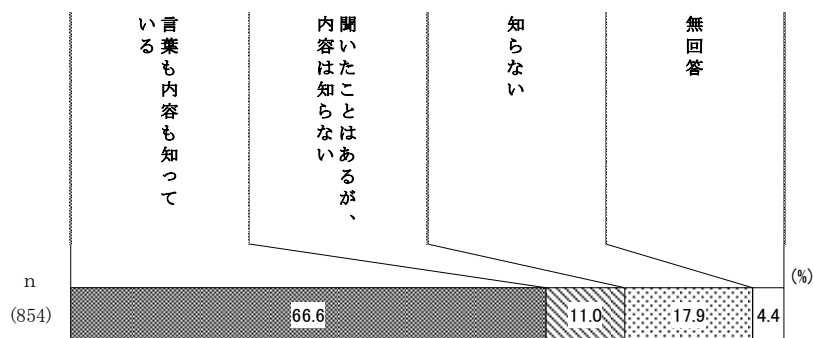
《新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した日常生活の変化:問20(3)》(複数回答)(新規設問)



・新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した日常生活の変化では、増えた割合の多いものは「デジタル機器を使う時間」、減った割合の多いものは「友人・知人等への訪問や来訪」、「運動や体を動かす時間」、「趣味等のサークル活動への参加頻度・回数」、「買い物の頻度・回数」となっている。

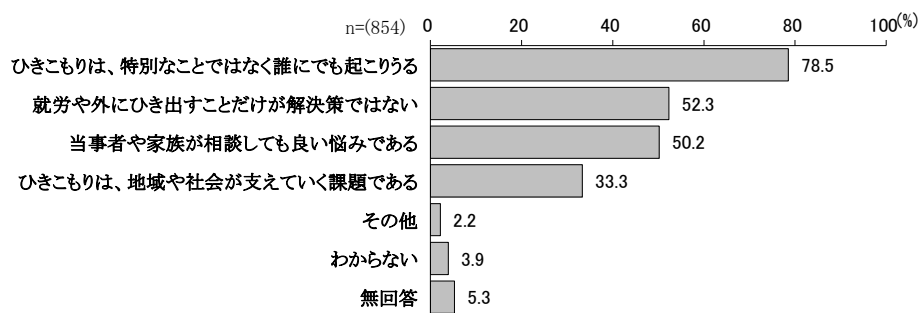
(6)ヤングケアラーやひきこもりについて

《ヤングケアラーの認知度:問21》(新規設問)



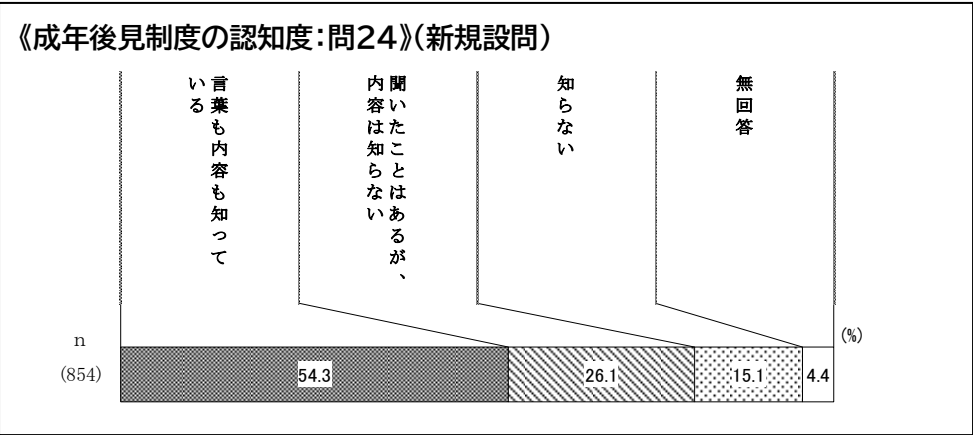
・「ヤングケアラー」という言葉や内容の認知度では、「言葉も内容も知っている」が66.6%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が11.0%、「知らない」が17.9%となっている。

《ひきこもりについての理解度:問23》(複数回答)(新規設問)



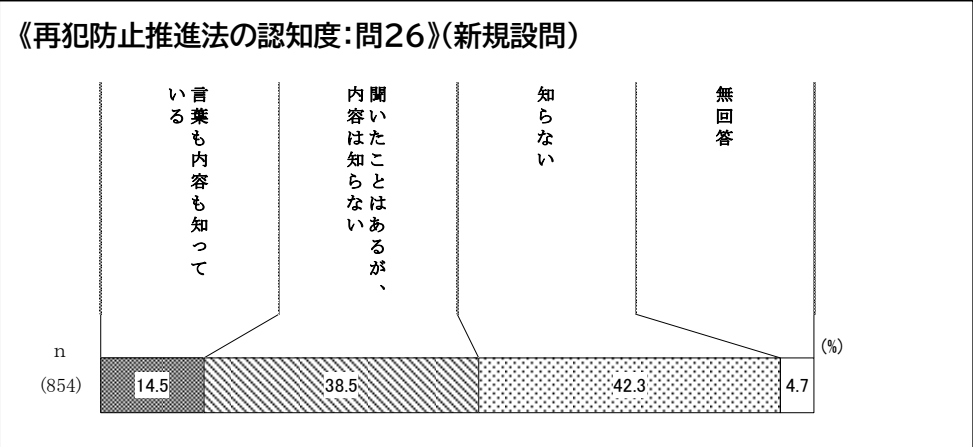
・「ひきこもり」についての理解度では、「ひきこもりは、特別なことではなく誰にでも起こりうる」(78.5%)が最も多く、以下「就労や外にひき出すことだけが解決策ではない」(52.3%)、「当事者や家族が相談しても良い悩みである」(50.2%)と続いている。

(7)成年後見制度について



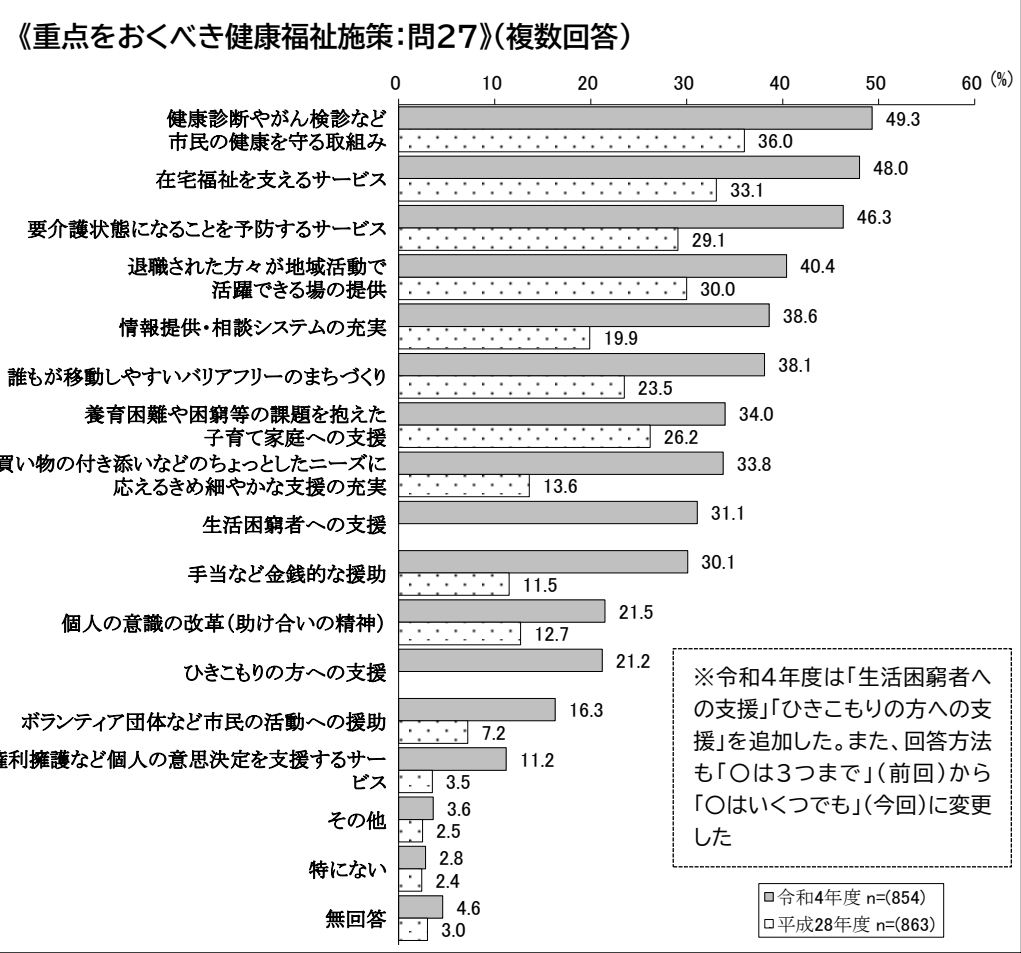
・「成年後見制度」という言葉や内容の認知度では、「言葉も内容も知っている」が54.3%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.1%、「知らない」が15.1%となっている。

(8)再犯の防止等の推進について



・「再犯防止推進法」という言葉や内容の認知度では、「言葉も内容も知っている」が14.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が38.5%、「知らない」が42.3%となっている。

(9)今後の健康福祉施策のあり方について



・重点をおくべき健康福祉施策では、「健康診断やがん検診など市民の健康を守る取組み」(49.3%)が最も多く、次いで「在宅福祉を支えるサービス」(48.0%)、「要介護状態になることを予防するサービス」(46.3%)の順となっている。

・前回調査と比較すると、上位2つ(「健康診断やがん検診など市民の健康を守る取組み」と「在宅福祉を支えるサービス」)に順位の変動はなく、3位の「要介護状態になることを予防するサービス」と5位の「情報提供・相談システムの充実」が前回調査より順位が上がっている。

武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定に係る
調査の概要（速報）

武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画（令和6年度から8年度まで）の策定にあたり、その基礎資料を得るため、以下の調査を実施しましたので報告します（一部、実施中）。

- ① 高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査
- ② 要介護高齢者・家族等介護者実態調査（在宅介護実態調査）
- ③ ケアマネジャーアンケート調査
- ④ 高齢者の在宅生活継続調査
- ⑤ 介護職員・看護職員等実態調査
- ⑥ 介護施設等における入退所調査
- ⑦ 独居高齢者実態調査

- ① 高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査 <厚生労働省の指針に基づく実態調査>
別紙【速報版】のとおり

- ② 要介護高齢者・家族等介護者実態調査（在宅介護実態調査）
<厚生労働省の指針に基づく実態調査>

目的	「要介護者の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」に有効なサービス利用の在り方やサービス整備の方向性を示す基礎資料とする。
対象者	要介護1から要介護5の在宅の方で「要介護認定の更新申請・変更申請」をし、本調査の調査期間内に要介護認定調査を受けた方
期間	令和4年9月1日から令和5年2月10日まで
回収 状況	有効回答 377 件 * 前回調査（令和元年度）は有効回答 617 件

- ③ ケアマネジャーアンケート調査

目的	介護保険サービスを利用する高齢者の実態や市の高齢者施策に対するケアマネジャー（介護支援専門員）の意見・要望等を把握する。
対象者	市内事業所に属するケアマネジャー及び武蔵野市民の利用者がいる市外事業所のケアマネジャー
期間	令和5年1月6日から1月20日まで
回収 状況	発送 214 件 回収 190 件（回収率 88.8%） * 前回調査（令和元年度）は発送 278 件 回収 187 件（回収率 67.2%）

- ④ 高齢者の在宅生活継続調査 <厚生労働省から例示された調査>

目的	現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者について、ケアマネジャーの視点による「生活を改善するために必要なサービス」を把握し、今後必要なサービスを検討する。
対象者	事業所票：市内事業所及び武蔵野市民の利用者がいる市外事業所の管理者 職員票：同事業所のケアマネジャー
期間	令和5年1月6日から1月20日まで *ケアマネジャーアンケート調査と同時に実施
回収 状況	事業所票：発送 63 件 回収 63 件（回収率 100%） 発送 214 件 回収 190 件（回収率 88.8%） * 前回調査（令和元年度）は事業所票：発送 83 件 回収 75 件（回収率 90.4%）、職員票：発送 278 件 回収 187 件（回収率 67.2%）

⑤ 介護職員・看護職員等実態調査 <厚生労働省から例示された調査>

目的	福祉サービスを担う介護職員・看護職員等の現状を把握し、今後の武蔵野市における人材の確保・育成に係る具体的な方策を検討するための基礎資料とする。
対象者	事業所票：市内で介護サービス・障害福祉サービスを提供している施設・事業所の施設長・管理者、職員票：同施設・事業所の介護職員、看護職員、リハビリテーション職員
期間	令和4年11月28日から12月6日まで
回収状況	事業所票：発送225件 回収169件（回収率75.1%）、職員票：回収1,743件 *前回調査（令和元年度）は事業所票：発送185件 回収155件（回収率83.8%）、職員票：回収1,693件

⑥ 介護施設等における入退所調査 <厚生労働省から例示された調査>

目的	住み慣れた地域で最期まで生活を継続するために介護施設等に必要な機能を検討するための基礎資料とする。具体的には、住まいを変更せざるを得なかった人と、その住まいで最期まで生活できた人の割合を把握する。
対象者	市内で介護サービスを提供している施設・事業所及び武蔵野市内の利用者を受け入れている市外の特別養護老人ホームの施設長・管理者
期間	令和4年11月28日から12月6日まで *介護職員・看護職員等実態調査と同時に実施
回収状況	発送38件 回収30件（回収率78.9%） *前回調査（令和元年度）は発送37件 回収29件（回収率78.4%）

⑦ 独居高齢者実態調査 <実施中>

目的	市内独居高齢者の数や実態を把握し、緊急連絡先を収集する。また、民生委員が自宅を訪問し、日常生活での困りごとや生活の状況などを把握する。併せて、3年に1度民生委員改選後に対象者を訪問し、担当地域を知るきっかけの場とする。
対象者	65歳以上の単身世帯の市民（住民基本台帳上）
期間	事前調査（郵送）：令和5年1月10日から1月31日まで 本調査（訪問）：令和5年4月から5月まで 未回答者調査（訪問）：令和5年10月から12月まで（予定）
回収状況	事前調査：対象者11,068件 回収等7,995件（回収率72.2%） ※仮集計 *前回調査（令和元年度）は対象者10,745件 回収等7,557件（回収率70.3%）

武蔵野市 介護予防・日常生活アンケート調査の報告 【速報版】

1 調査の概要

◇調査目的： 「武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」を令和5年度に策定するにあたりその基礎資料を得るため、高齢者の生活実態、地域活動への参加意向、介護保険事業の利用意向、その他高齢者施策全般に係る意見・要望等を把握する。

◇調査対象者： 市内在住の要介護1～要介護5の要介護認定を受けていない65歳以上市民1,500名（要支援1、要支援2、総合事業対象者を含む。厚生労働省の指針に基づく実態調査）

※令和4年10月1日時点の住民基本台帳より無作為抽出

◇調査期間： 令和4年12月7日から12月23日まで

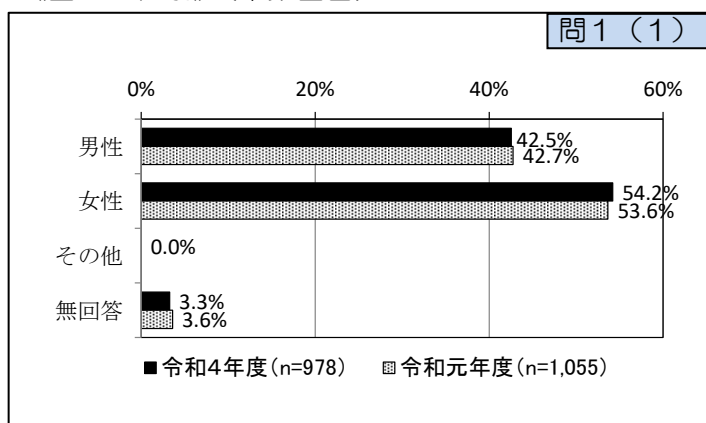
◇調査方法： 郵送配布・郵送回収（督促を兼ねたお礼状を1回発送）

◇回収状況： 配布数：1,500件 回収数：978件（回収率65.2%）

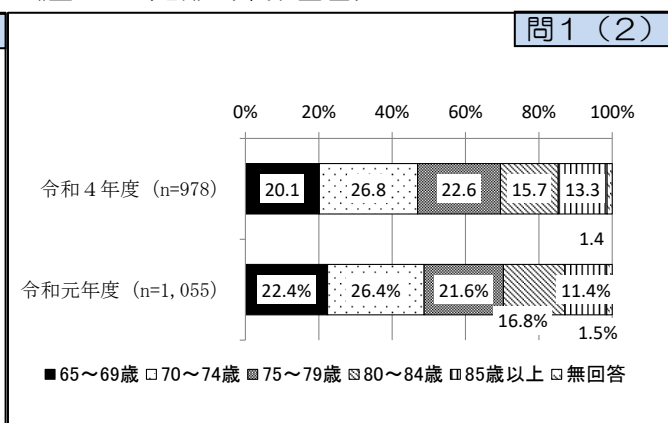
2 結果の概要

（1）回答者の属性や生活状況について

《図1 性別》（単数回答）



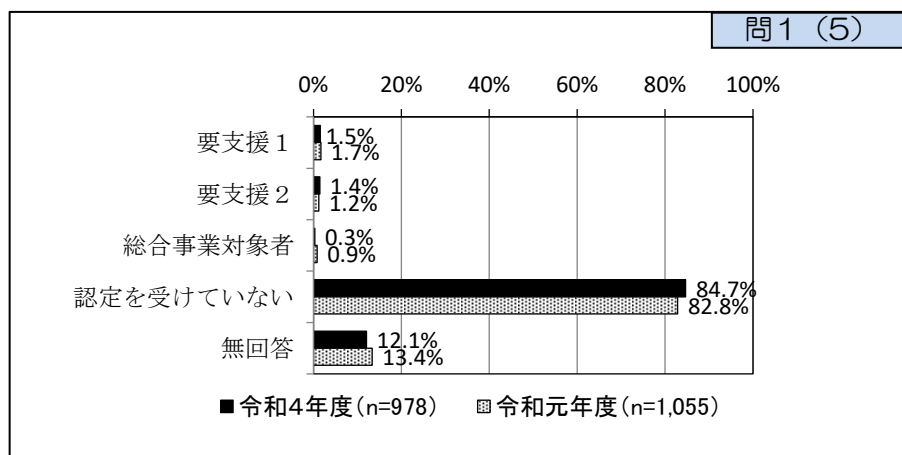
《図2 年齢》（単数回答）



・性別は「男性」が42.5%、「女性」が54.2%だった。

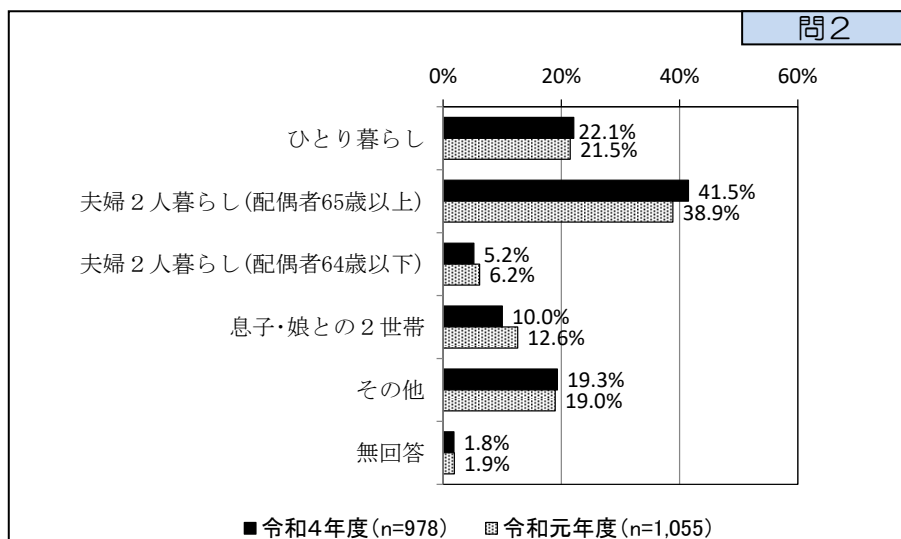
・年齢は「65～69歳」が20.1%、「70～74歳」が26.8%だった。

《図3 要支援（介護）認定》（単数回答）



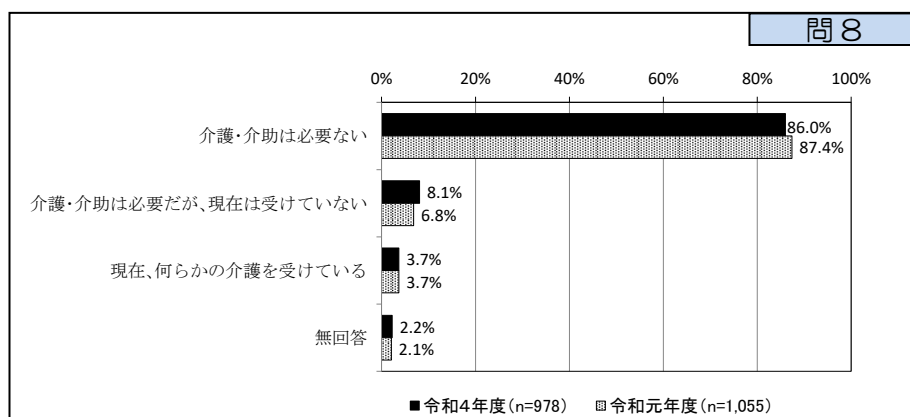
・要支援（介護）認定の状況は、「要支援1」が1.5%、「要支援2」が1.4%と要支援認定を受けている人は少なく、「認定を受けていない」人が84.7%だった。

《図 4 家族構成》（単数回答）



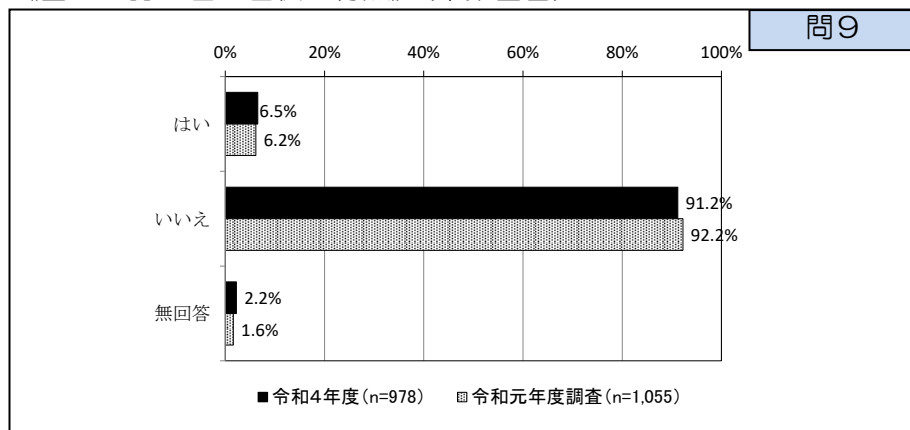
- ・家族構成は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が41.5%、「ひとり暮らし」が22.1%となっている。

《図 5 介護・介助の必要性》（単数回答）



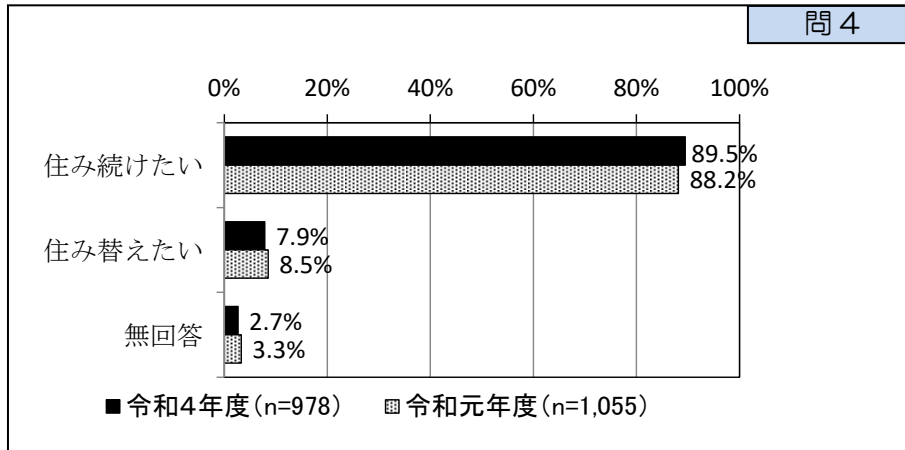
- ・介護・介助については、「介護・介助は必要ない」の割合が高く、86.0%となっている。
- ・「介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は8.1%となっている。

《図 6 認知症の症状の有無》（単数回答）



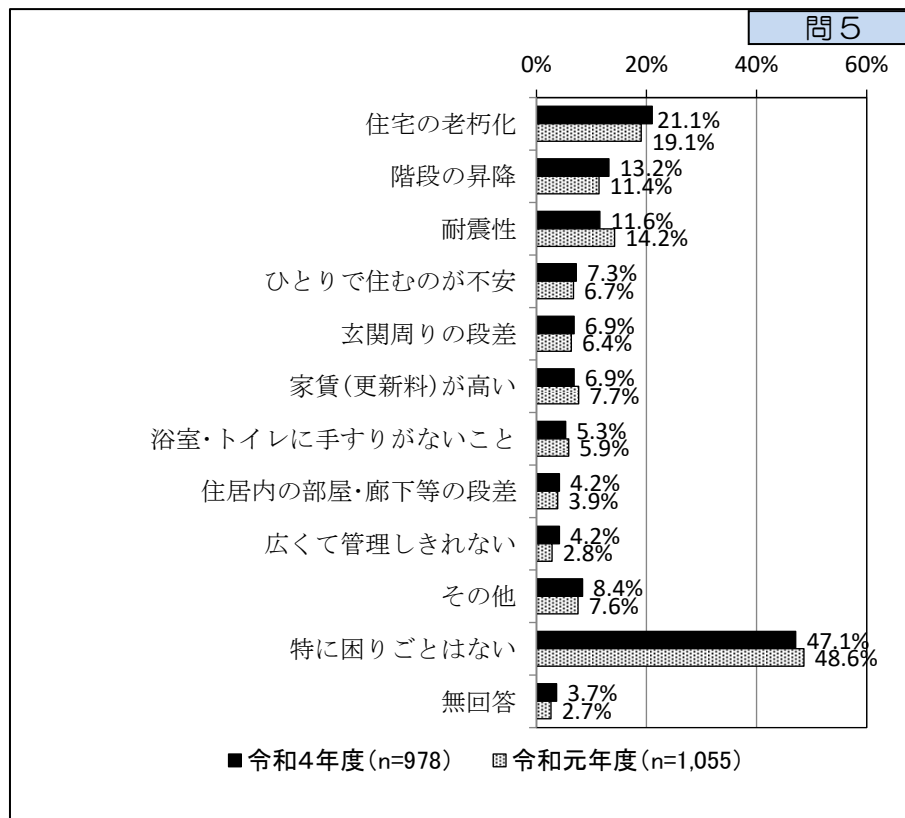
- ・認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人は、全体の6.5%（64人）だった。

《図 7 現在の住まいの居留意向》（単数回答）



- ・現在の住まいの居留意向は高く、「住み続けたい」が89.5%にのぼる。

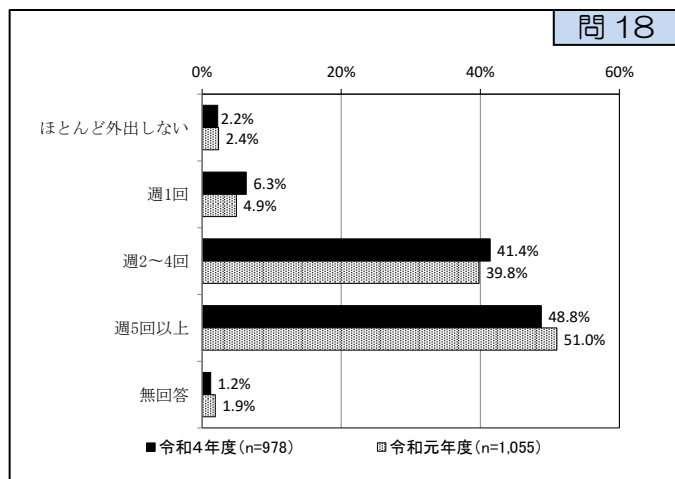
《図 8 現在の住まいに住み続ける上での困りごと》（複数回答）



- ・現在の住まいに住み続ける上での困りごとは、「特に困りごとはない」が最も多く、47.1%となっている。
- ・次いで、「住宅の老朽化」が21.1%、「階段の昇降」が13.2%、「耐震性」が11.6%となっている。

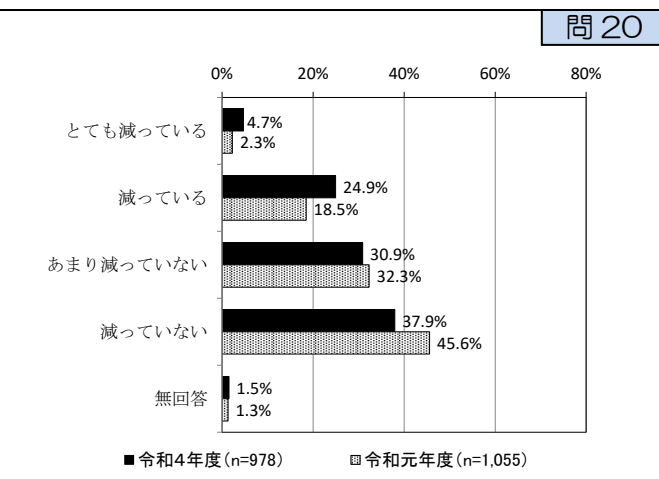
《図 9 週 1 回以上外出しているか》

(単数回答)



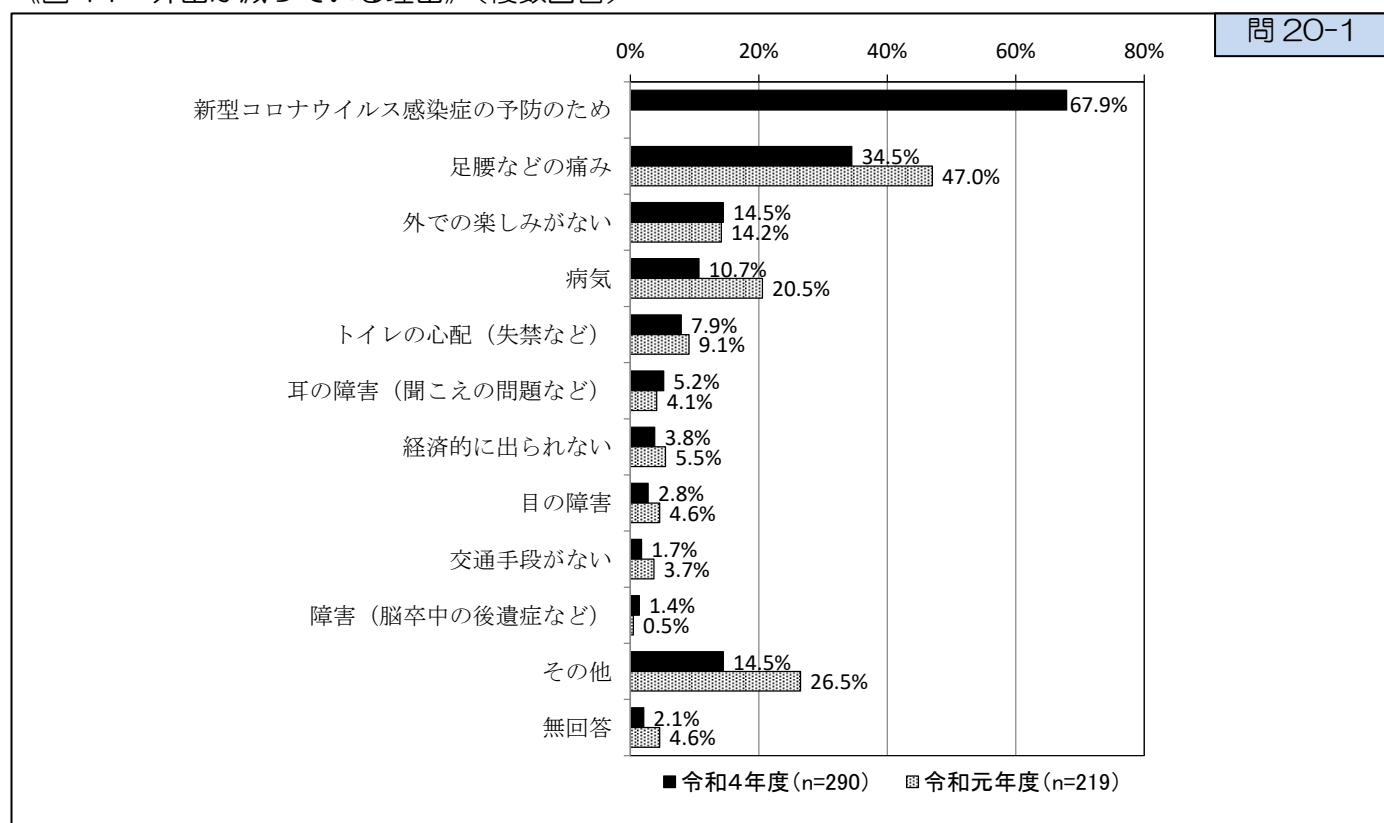
《図 10 昨年と比べて外出回数は減っているか》

(単数回答)



- ・外出の状況については、「週 5 回以上」が 48.8%と約半数、次いで「週 2～4 回」が 41.4%だった。「ほとんど外出しない」は 2.2%にとどまっている。
- ・外出回数を昨年と比べると、「減っていない」が 37.9%、「あまり減っていない」が 30.9%であった。他方、「とても減っている」(4.7%)、「減っている」(24.9%) の回答もみられた。

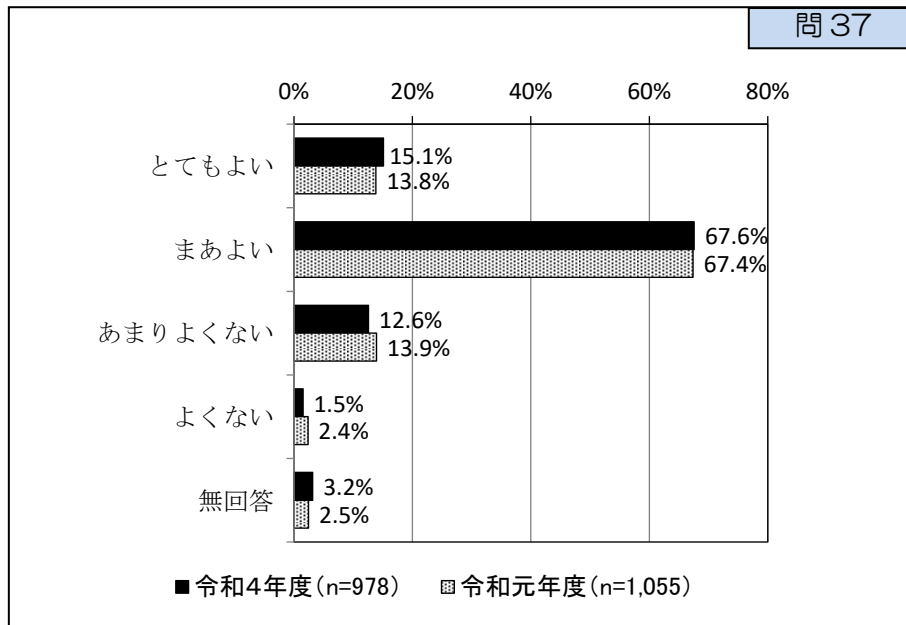
《図 11 外出が減っている理由》(複数回答)



- ・外出が減っている理由については、「新型コロナウイルス感染症の予防のため」の割合が最も高く、67.9%だった。次いで、「足腰などの痛み」が 34.5%、「外での楽しみがない」が 14.5%だった。

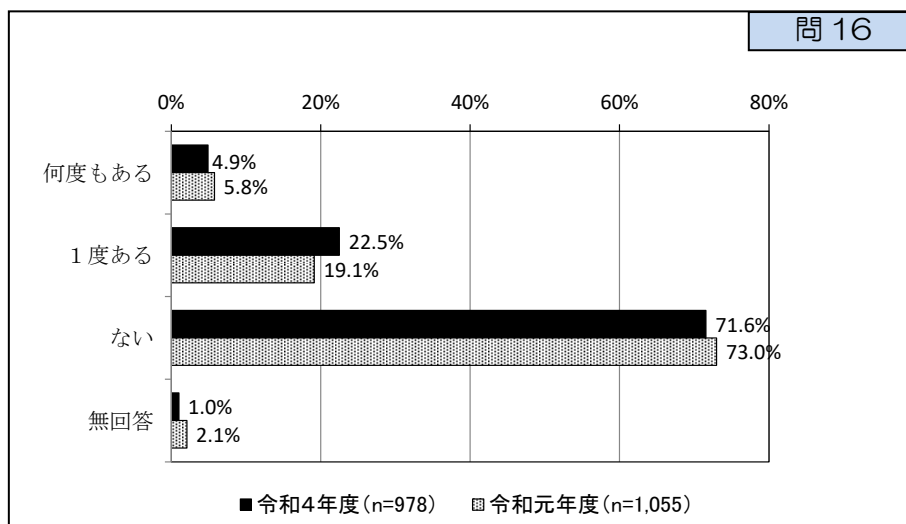
(2) 健康やからだを動かすことについて

《図 12 健康状態》(単数回答)



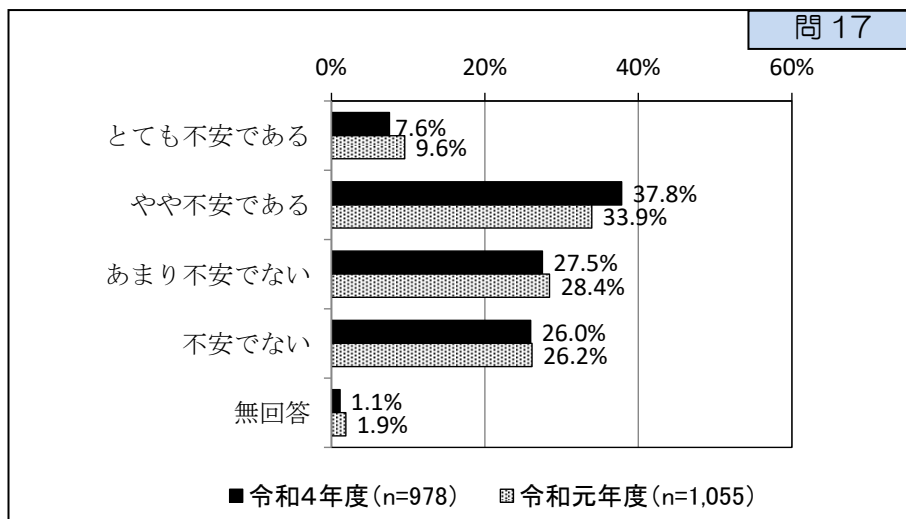
- ・健康状態は、「とてもよい」と「まあよい」の合計が 82.7% を占めている。
- ・他方、「あまりよくない」と「よくない」の合計は、14.1% であった。

《図 13 過去1年間の転倒の経験》(単数回答)



- ・過去1年間に転んだ経験は「ない」が 71.6% となっている。

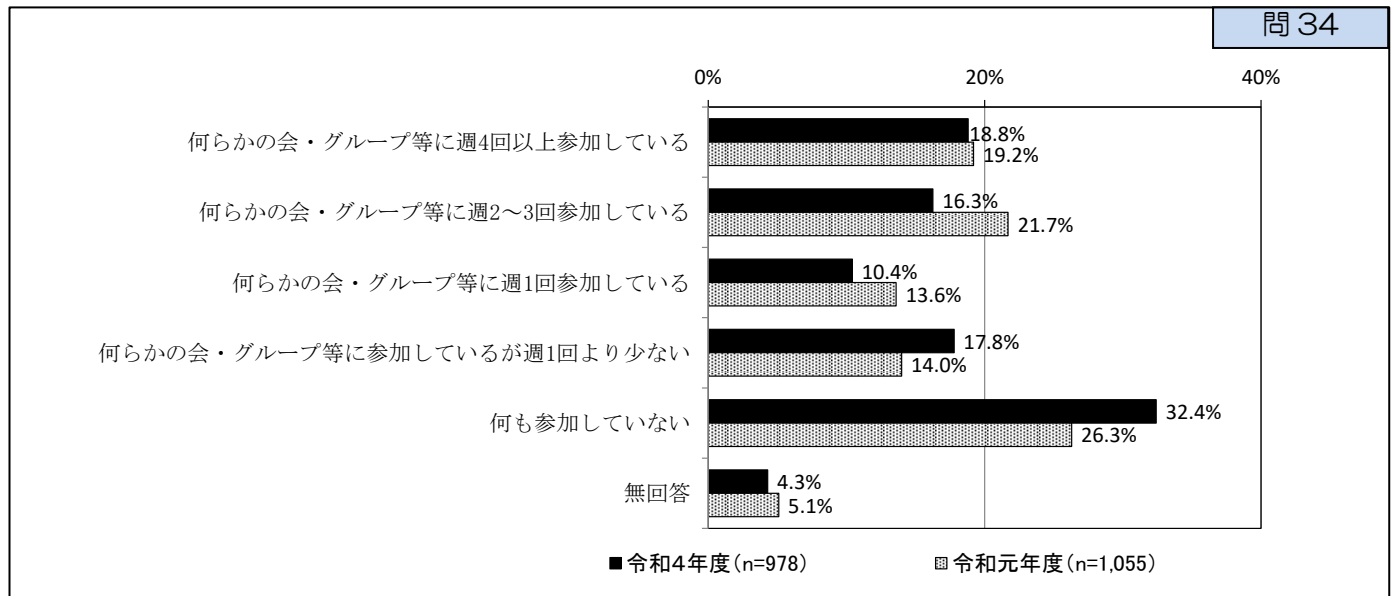
《図 14 転倒に対する不安》(単数回答)



- ・転倒に対する不安は、「とても不安である」と「やや不安である」の合計が 45.4% となっている。

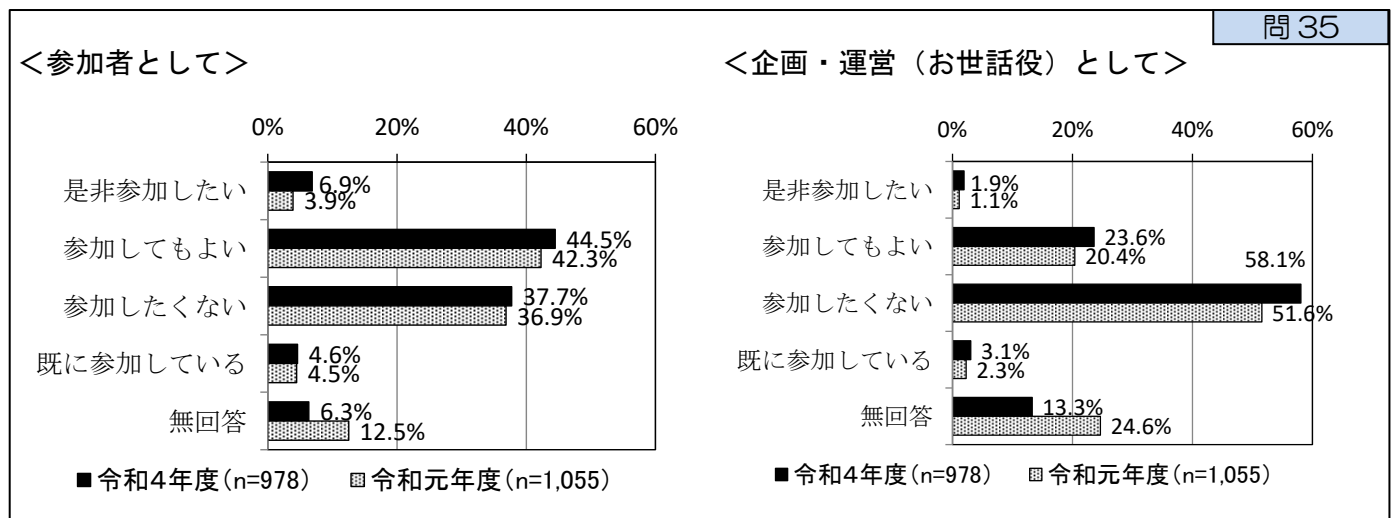
(3) 地域での活動やたすけあいについて

《図 15 地域で行われている会・グループ等への参加頻度》(単数回答)



- ・何らかの会・グループ等に週1回以上参加している割合は減少傾向がみられる。
- ・何も参加していない人の割合は32.4%と、増加傾向がみられる。

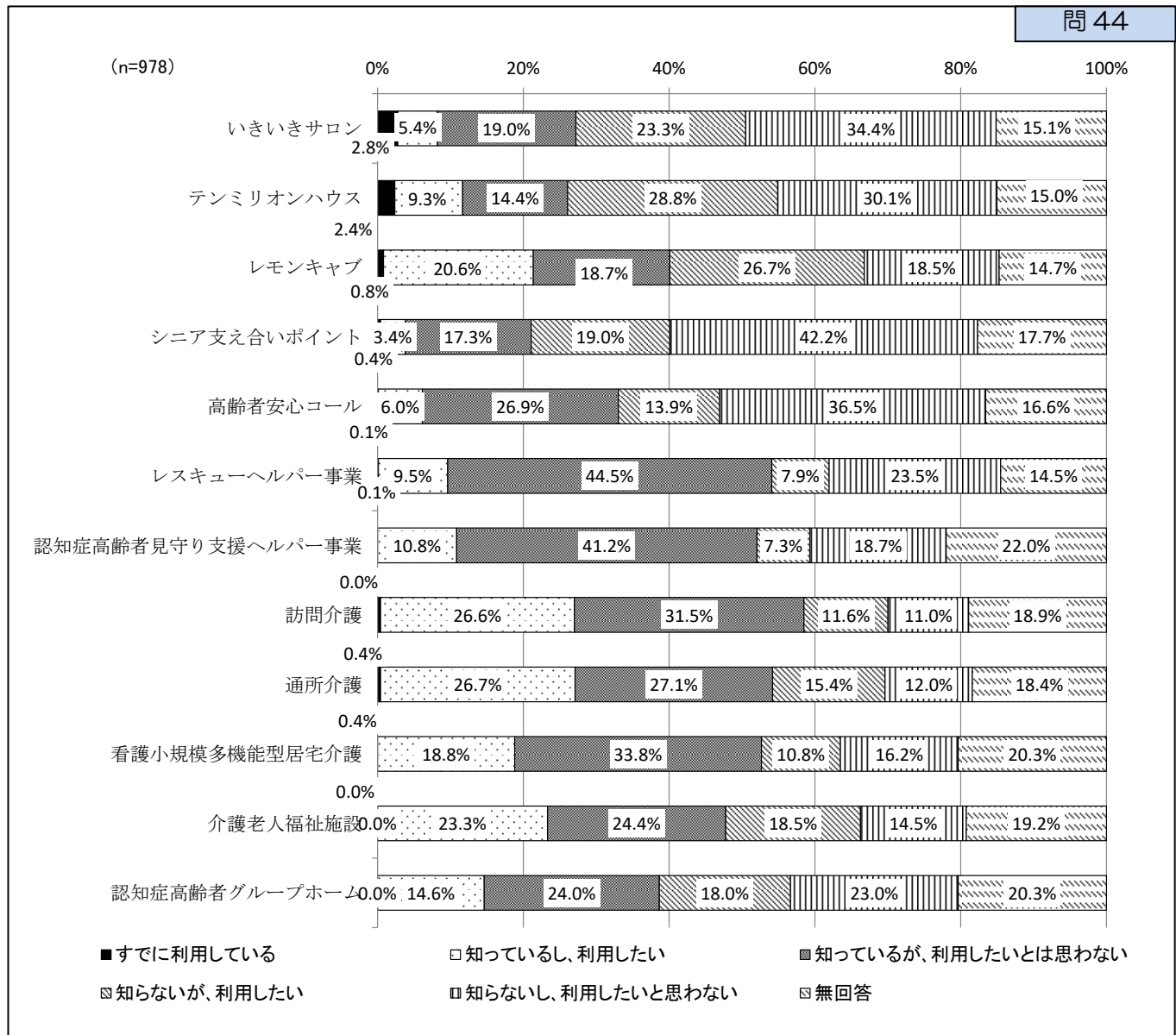
《図 16 地域住民の有志による地域づくりへの参加意向》(単数回答)



- ・地域住民の有志による、健康づくり活動を趣味等のグループを通した、いきいきとした地域づくりについて、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は、参加者としては51.4%、企画・運営(お世話役)としては25.5%となっている。

(4) サービスの認知・利用意向について

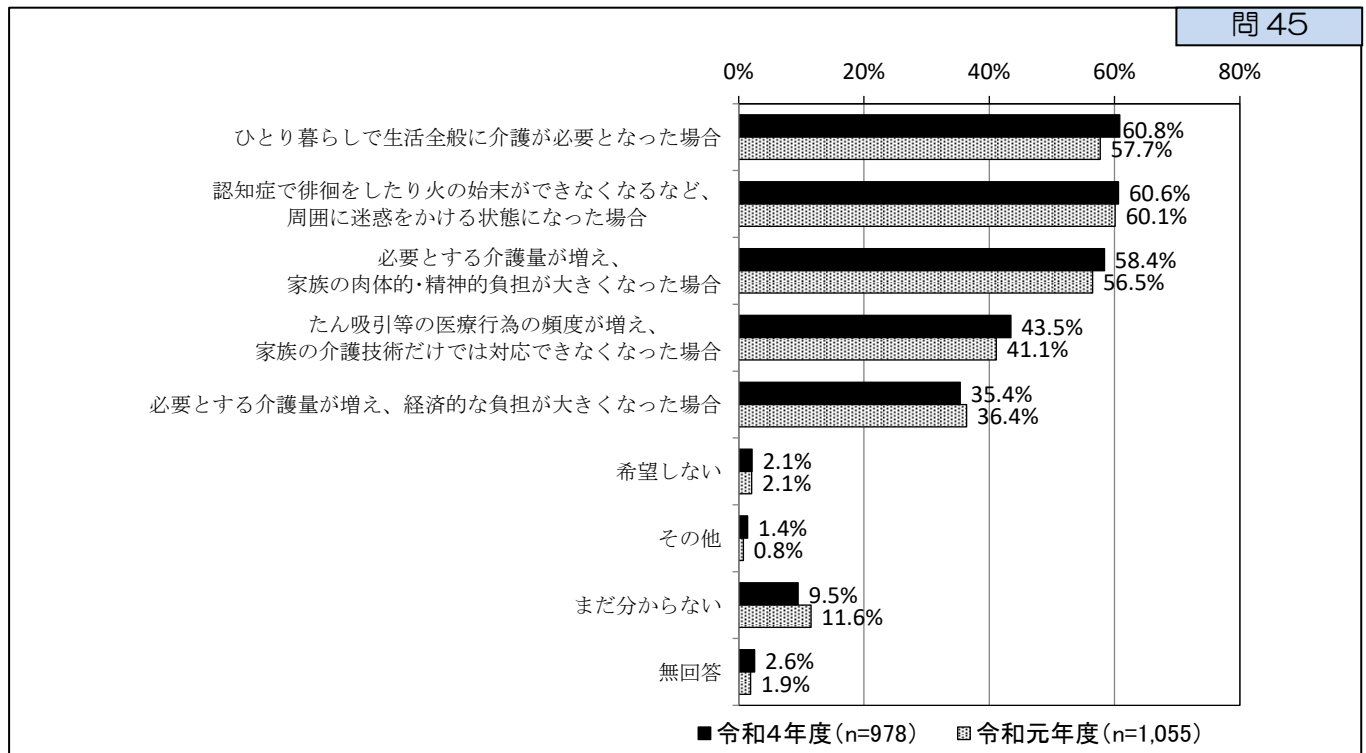
《図 17 サービスの認知・利用意向》(単数回答)



・「すでに利用している」、「知っているし、利用したい」及び「知っているが、利用したいとは思わない」の合計をみると、訪問介護が 58.5%、レスキューヘルパーが 54.1%、認知症高齢者見守りヘルパー事業が 52.0%となっている。

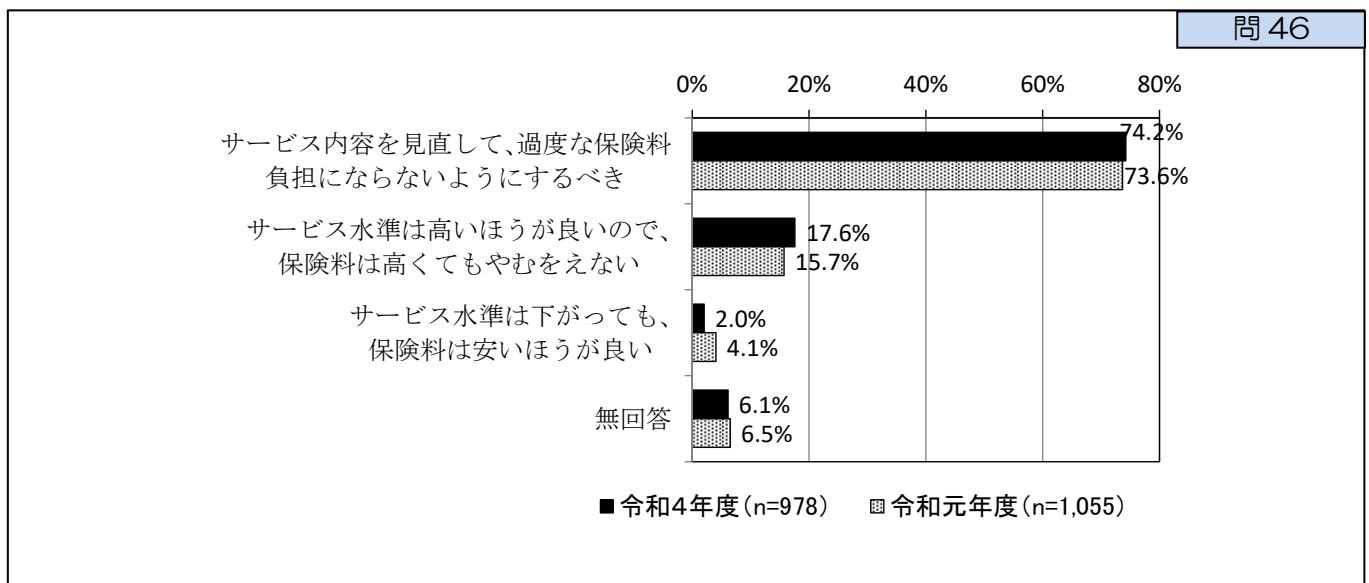
（５）今後の暮らしについて

《図 18 自分がどのような状態になったら施設入所を希望するか》（複数回答）



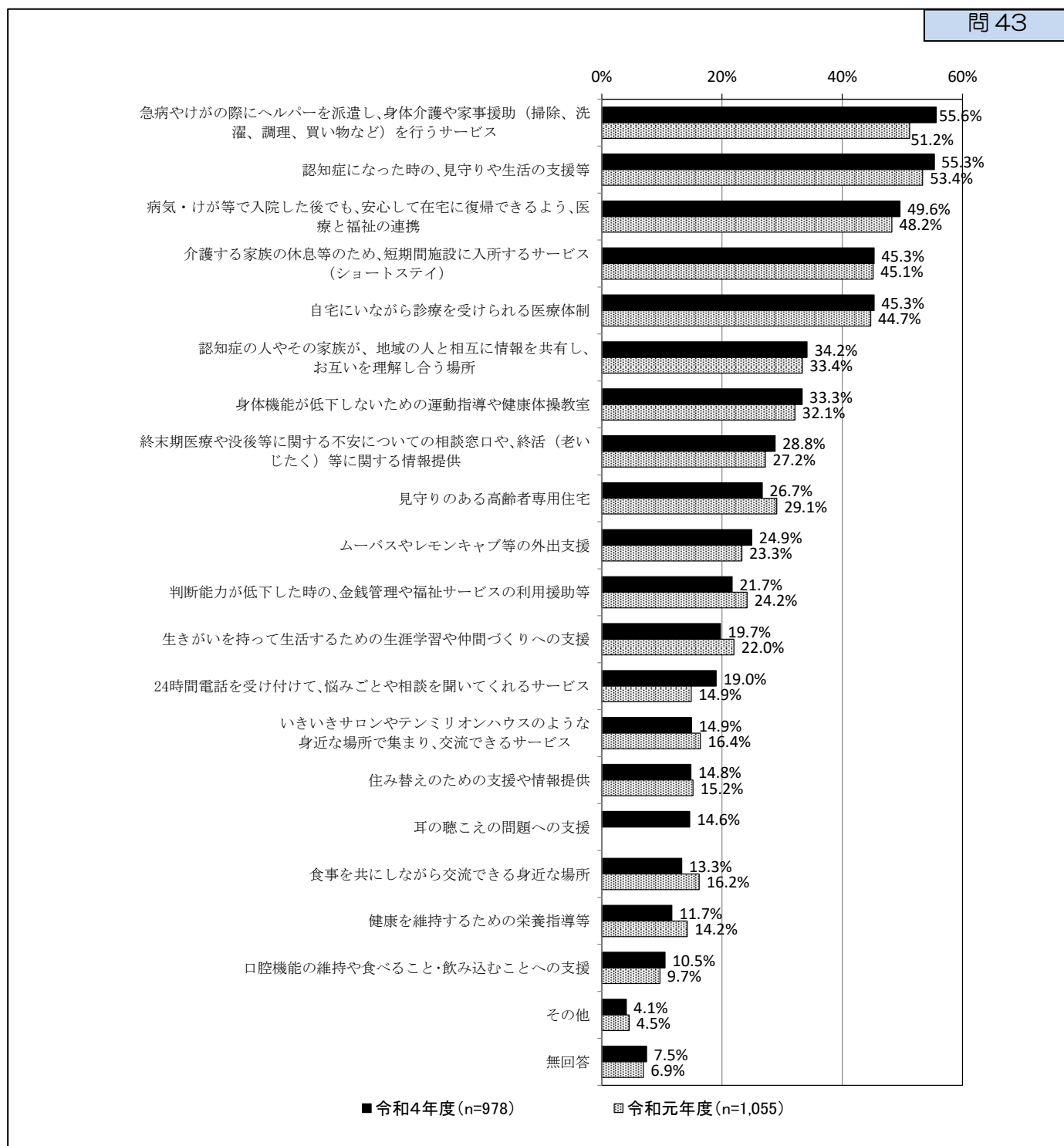
・「ひとり暮らしで生活全般に介護が必要となった場合」（60.8%）、「認知症で徘徊をしたり火の始末ができなくなるなど、周囲に迷惑をかける状態になった場合」（60.6%）、「必要とする介護量が増え、家族の肉体的・精神的負担が大きくなった場合」（58.4%）に施設入所を希望するという回答がいずれも5割を超えている。

《図 19 サービス水準と保険料の関係について》（単数回答）



・介護サービスの水準と保険料の関係は、「サービス内容を見直して、過度な保険料負担にならないようにすべき」の割合が最も高く、74.2%となっている。「サービス水準は高いほうが良いので、保険料は高くてもやむをえない」は17.6%である。

《図 20 今後住み慣れた地域で暮らし続けるために充実してほしい施策や支援》（複数回答）



- ・「急病やけがの際にヘルパーを派遣し、身体介護や家事援助を行うサービス」の割合が最も高い（55.6%）。次いで、「認知症になった時の、見守りや生活の支援等」（55.3%）、「病気・けが等で入院した後でも、安心して在宅に復帰できるよう、医療と福祉の連携」（49.6%）が続く。これらは令和元年度調査でも上位3項目を占めており、令和元年度調査と比べて「急病やけがの際にヘルパーを派遣し、身体介護や家事援助を行うサービス」は4.4ポイント、「認知症になった時の、見守りや生活の支援等」は1.9ポイント、「病気・けが等で入院した後でも、安心して在宅に復帰できるよう、医療と福祉の連携」は1.4ポイント、割合が高くなっている。
- ・また、令和4年度調査から選択肢を追加した「耳の聴こえの問題への支援」は14.6%だった。

武蔵野市障害者福祉についての実態調査の報告【速報版】

1 調査の概要

- ◇調査目的 令和5年度に武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画を策定するにあたり、基礎資料及び日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料として活用するために実施した。
- ◇調査対象者 身体障害 : 身体障害者手帳所持者で「つながり」送付対象者
知的障害 : 愛の手帳所持者で「つながり」送付対象者
精神障害 : 精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療（精神通院）受給者で「こころのつながり」送付対象者
難病・特定疾患 : 医療費助成（難病・肝炎・小児慢性）受給者
児童 : 障害児通所支援サービス受給者（児童発達支援・放課後等デイサービス）
※令和4年11月1日現在の状況。児童の区分については令和4年度調査から新規追加
- ◇調査期間 令和4年11月22日から12月16日まで
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収またはWEB回収併用（督促を兼ねたお礼状を1回発送）
- ◇回収状況 配布数3,000件 回収数1,878件 回収率62.6%（令和元年度回収率56.4%）

<区分別の回収状況>

区 分	発送数（件）	有効回収数（件） （うちWEB回答）	有効回収率 （うちWEB回答率）	前回回収率
身体障害	1,396	902(179)	64.6%(19.8%)	58.1%
知的障害	445	294 (90)	66.1%(30.6%)	63.4%
精神障害	588	320(121)	54.4%(37.8%)	47.1%
難病・特定疾患	420	279 (96)	66.4%(34.4%)	60.8%
児童	151	83 (46)	55.0%(55.4%)	-
合計	3,000	1,878(532)	62.6%(28.3%)	56.4%

2 結果の概要

1) 本人について

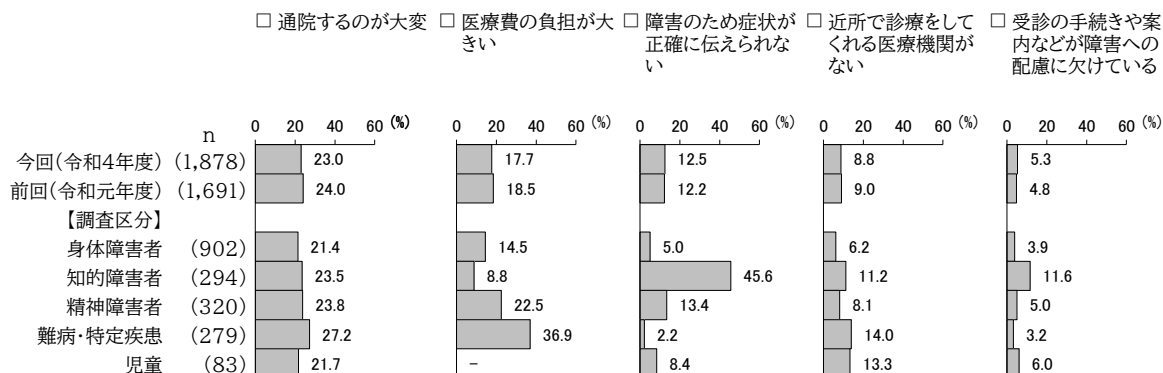
年齢は「75歳以上」が28.5%で最も多く、「65～74歳」は15.7%で65歳以上の高齢者は44.2%となっている。
調査区分別にみると、身体障害者では「75歳以上」が50.6%を占める。知的障害者では6歳から29歳の若年層、精神障害者では30歳から64歳の年齢層、難病・特定疾患では50歳以上が多くなっている。児童では0～5歳が43.4%、6～18歳が50.6%となっている。

	n	0～5歳	6～18歳	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
全 体	1,878	2.9	7.2	7.1	7.4	11.2	19.3	15.7	28.5	0.7
身体障害者	902	0.3	1.1	1.8	2.7	7.1	14.3	21.7	50.6	0.4
知的障害者	294	4.8	25.2	26.2	15.3	16.7	9.5	2.0	0.3	-
精神障害者	320	-	1.6	9.1	15.3	16.9	38.8	13.1	5.0	0.3
難病・特定疾患	279	0.4	1.4	3.9	7.5	15.8	29.4	17.9	22.6	1.1
児童	83	43.4	50.6	-	-	-	-	-	-	6.0

2) 保健・医療について

○健康管理や医療で困ったり不便に思うことは、「通院するのが大変」はいずれの調査区分でも2割台となっている。知的障害者では「障害のため症状が正確に伝えられない」が45.6%、難病・特定疾患では「医療費の負担が大きい」が36.9%と他の調査区分より多くなっている。

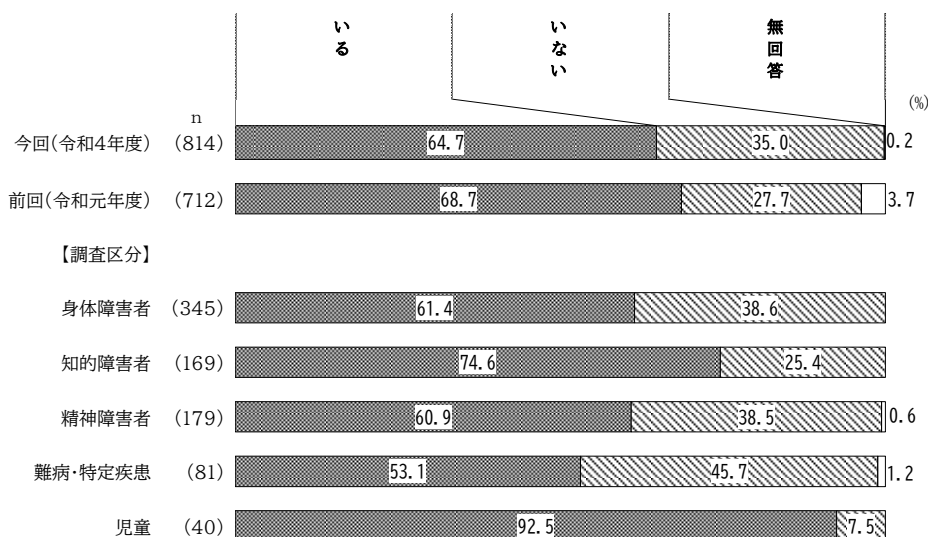
<健康管理や医療の面で困ったり不便に思うこと>



3) 相談について

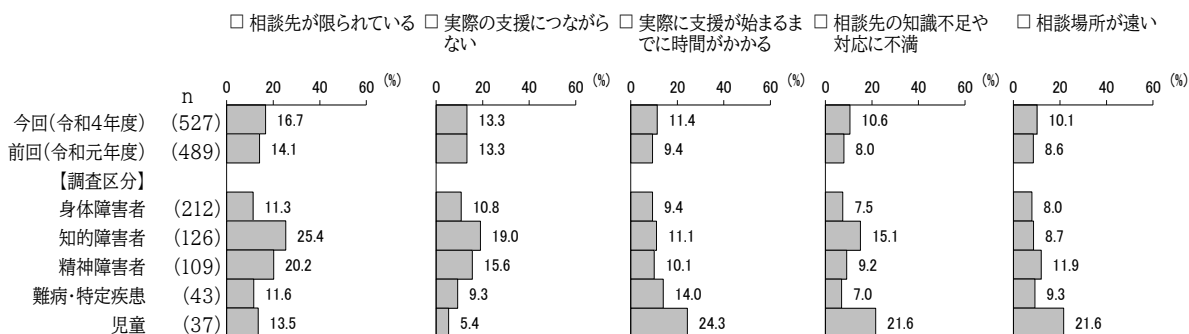
○困っていることを相談する人が「いる」は身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童で6割以上となっており、特に児童では92.5%を占めている。

<相談相手>



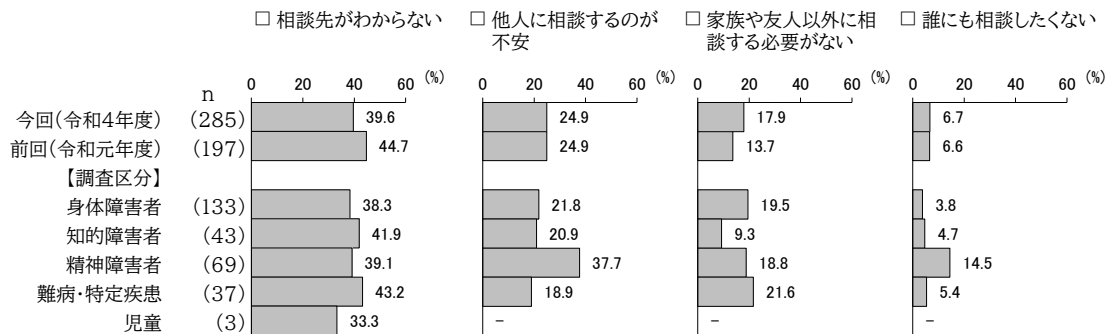
○相談する際に不便に感じていることは、「相談先が限られている」、「実際の支援につながらない」、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」、「相談先の知識不足や対応に不満」、「相談場所が遠い」が1割台となっている。

<相談する際に不便なこと>



○相談相手がない理由は、「相談先がわからない」は難病・特定疾患、知的障害者で4割台、「他人に相談するのが不安」は精神障害者で37.7%と他の調査区分より多くなっている。

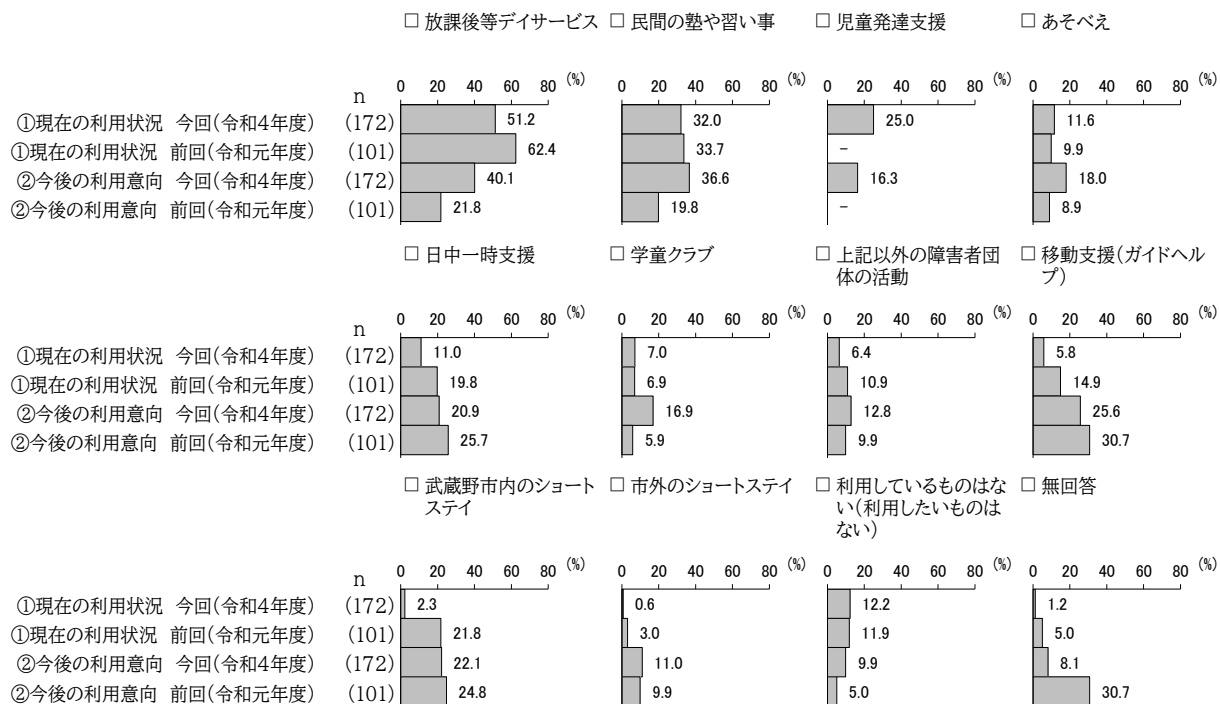
<相談相手がない理由>



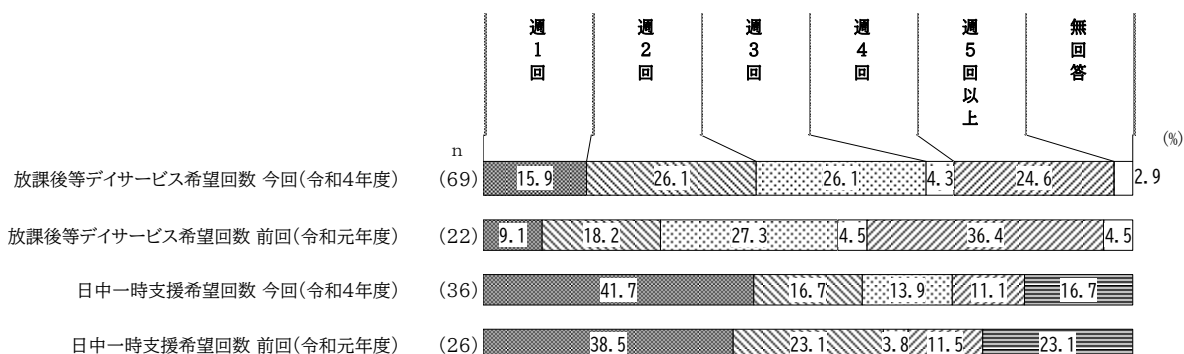
4) 通園・通学している障害児(0歳から18歳まで)の日中・放課後・休日などのサービス利用状況について

○現在の利用状況、今後の利用意向ともに「放課後等デイサービス」が特に多い。また、「放課後等デイサービス」の利用希望回数は週2～3回、「日中一時支援」では週1回が多くなっている。

<日中・放課後・休日のサービス>



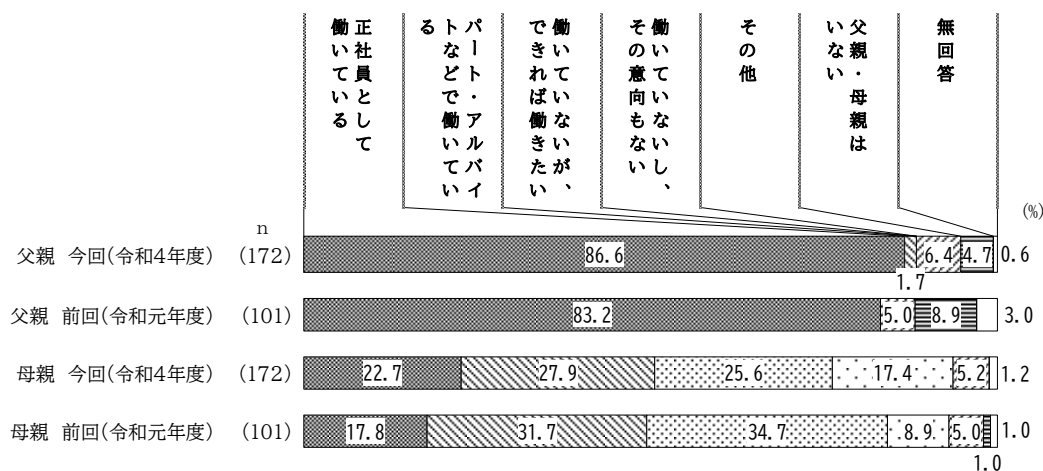
<希望する利用回数>



5) 通園・通学している障害児(0歳から18歳まで)の父母の就労について

- 父親の就労状況は「正社員として働いている」が86.6%を占め、《就労中》は88.3%となっている。
- 母親の就労状況は「正社員として働いている」が22.7%で、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた《就労中》は50.6%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は25.6%となり、前回調査より9.1%減少した。

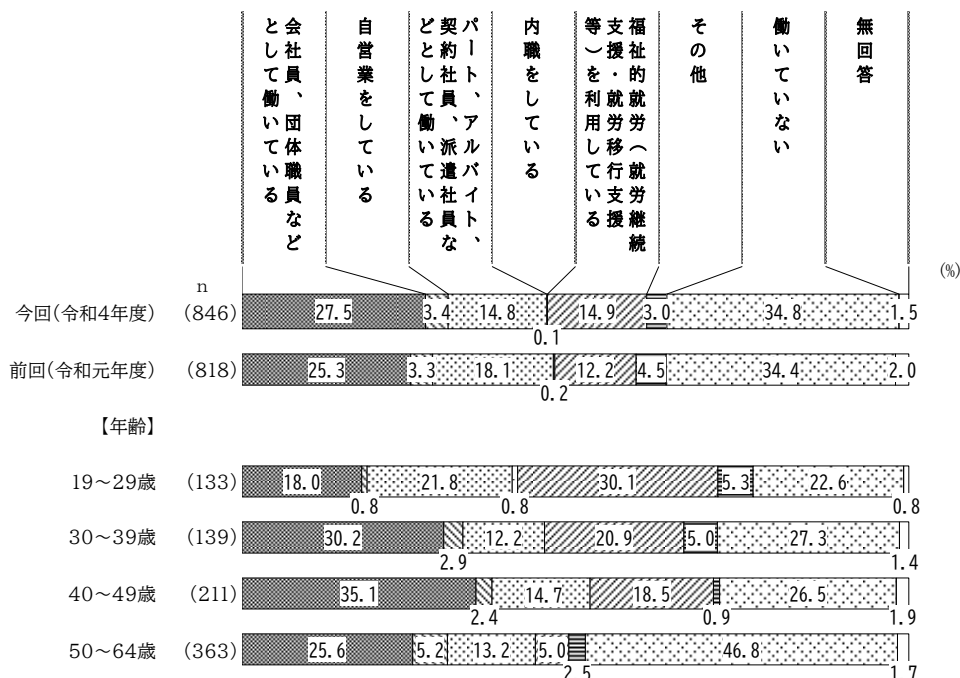
<父親・母親の就労状況>



6) 本人の就労について

- 本人の就労状況は、19歳～64歳の間では何らかの形で働いている人は63.7%、就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」が3割弱、「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」が1割台半ばと多く働いている。

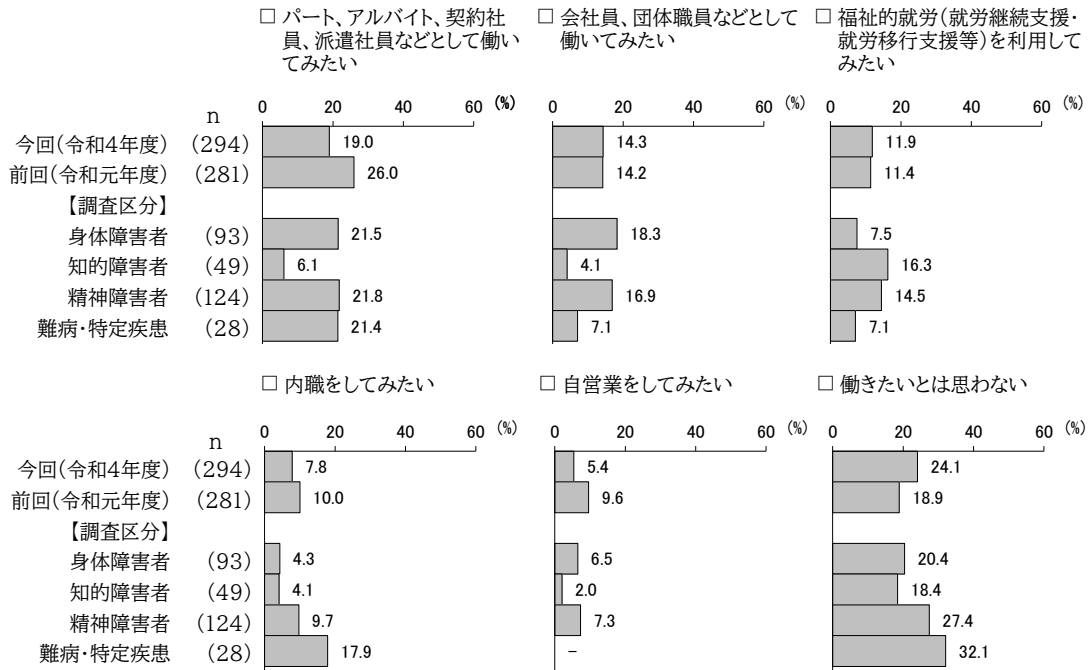
<本人の就労状況>



※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示しています。

- 今後の就労意向としては、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が2割台と多くなっている。知的障害者では「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用してみたい」が16.3%と多い。「働きたいとは思わない」は難病・特定疾患で32.1%と多くなっている。

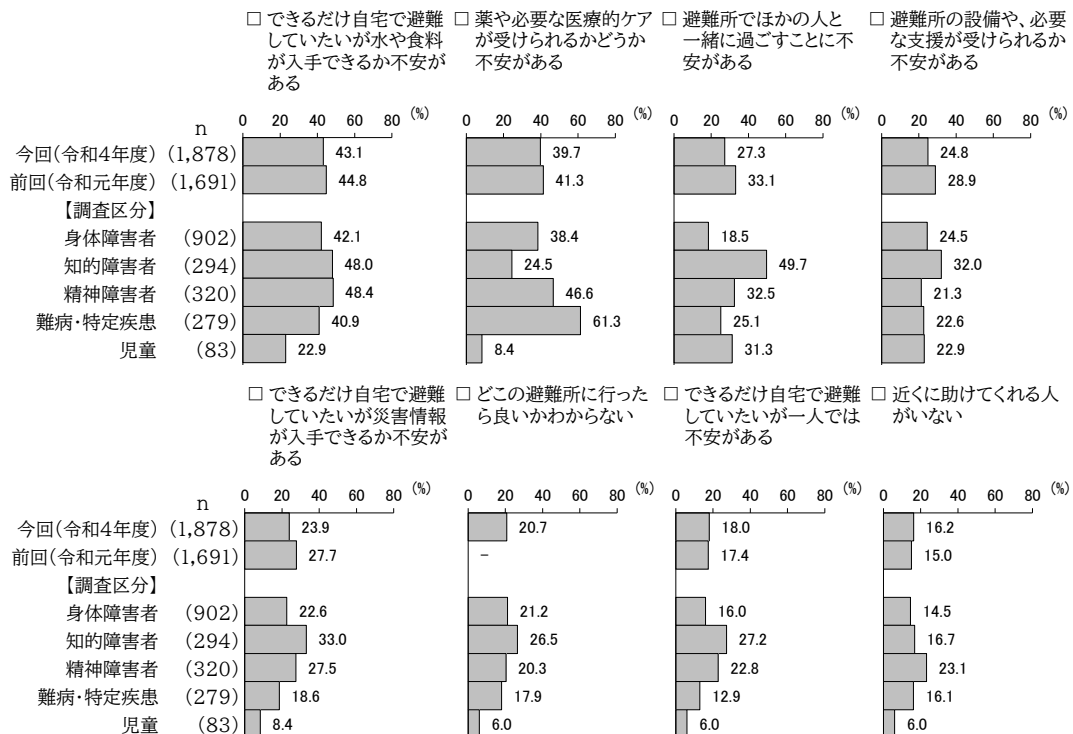
<今後の就労意向>



7) 災害時の対応について

○災害時の不安は、「できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある」は児童以外の調査区分で4割台と多くなっている。「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」は難病・特定疾患と精神障害者で多い。「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」は知的障害者で49.7%と特に多くなっている。知的障害者ではこの他、「できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある」、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」、「できるだけ自宅で避難したいが一人では不安がある」と多岐にわたる不安が示されている。「近くに助けてくれる人がいない」では精神障害者が23.1%と唯一2割台となっている。

<災害時の不安>

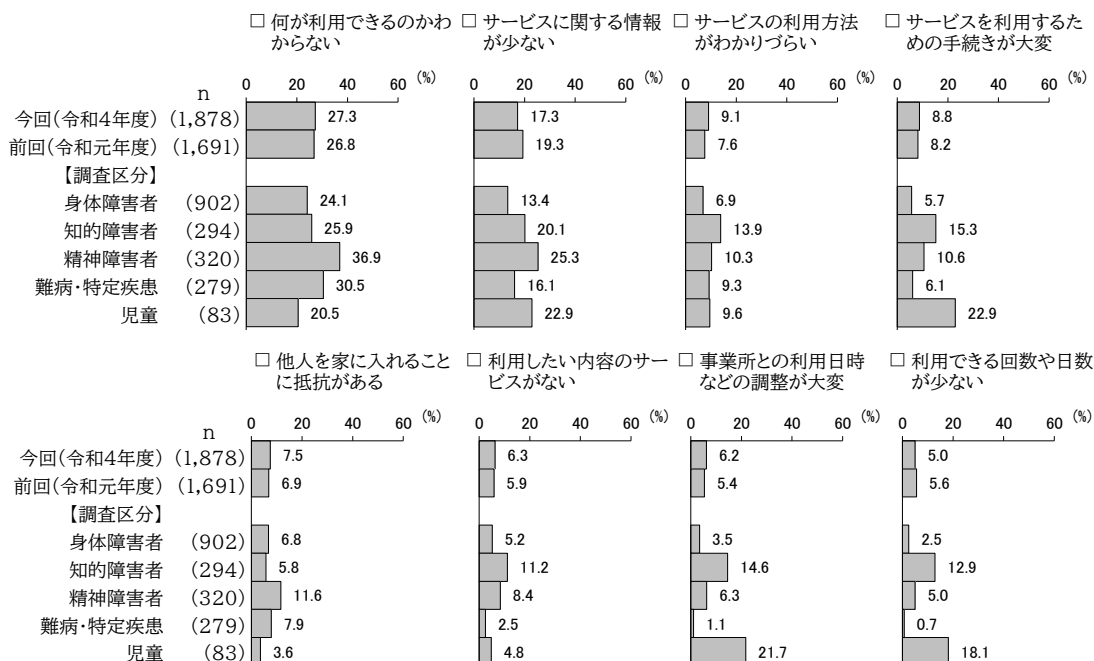


※「どこかの避難所に行ったら良いかわからない」は今回調査から新規で追加

8) 障害者福祉サービスの利用について

○障害福祉サービスの利用の際に不便だと思うことでは、いずれの調査区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。特に精神障害者では「何が利用できるのかわからない」、児童では「サービスを利用するための手続きが大変」が多くなっている。また、知的障害者と児童では「事業所との利用日時などの調整が大変」、「利用できる回数や日数が少ない」も他の調査区分より多くなっている。

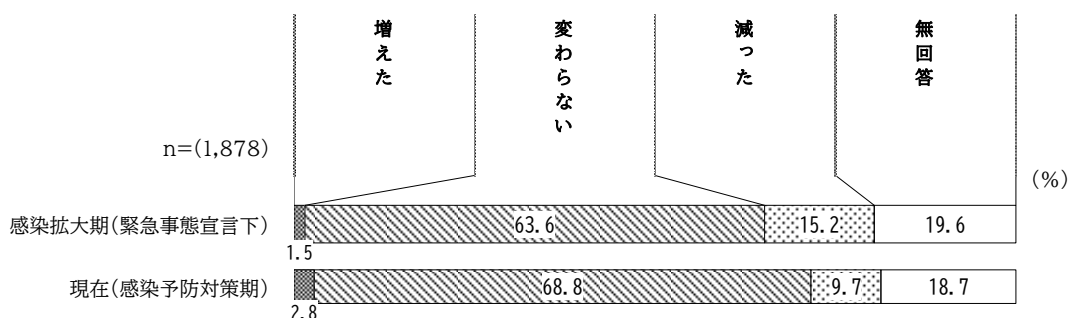
<障害福祉サービスを利用する際の不便>



9) 新型コロナウイルス感染症の影響について

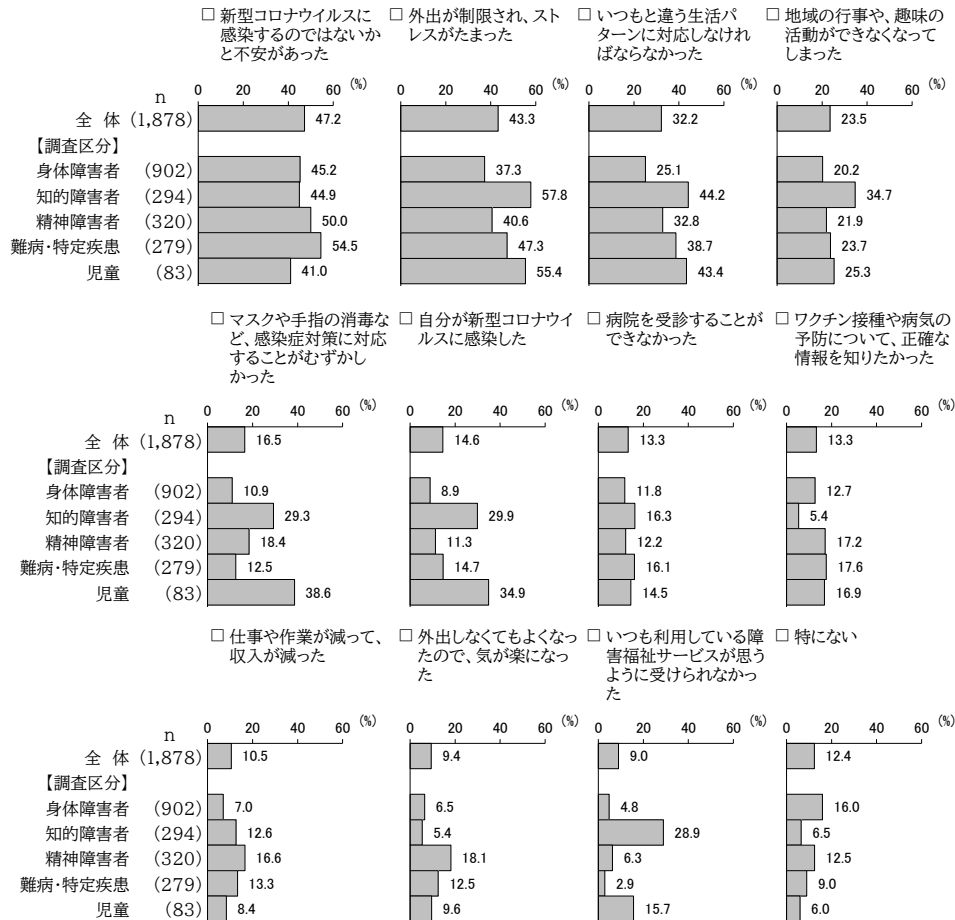
○感染症拡大による生活や行動の変化を聞いた。障害福祉サービスの利用は、どちらの時期も「変わらない」は6割台となっており、感染拡大期（緊急事態宣言下）に「減った」は15.2%、現在（感染予防対策期）に「減った」は9.7%となっている。

<障害福祉サービスの利用>



○新型コロナウイルス感染症拡大時の経験は、難病・特定疾患では「新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安があった」、知的障害者と児童では「外出が制限され、ストレスがたまった」が5割台と多い。知的障害者では「いつも利用している障害福祉サービスが思うように受けられなかった」が28.9%と他の調査区分より多くなっている。

<新型コロナウイルス感染症拡大時の経験>

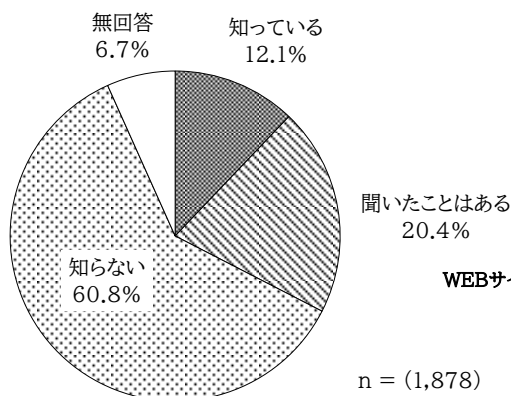


10) 障害者差別解消法について

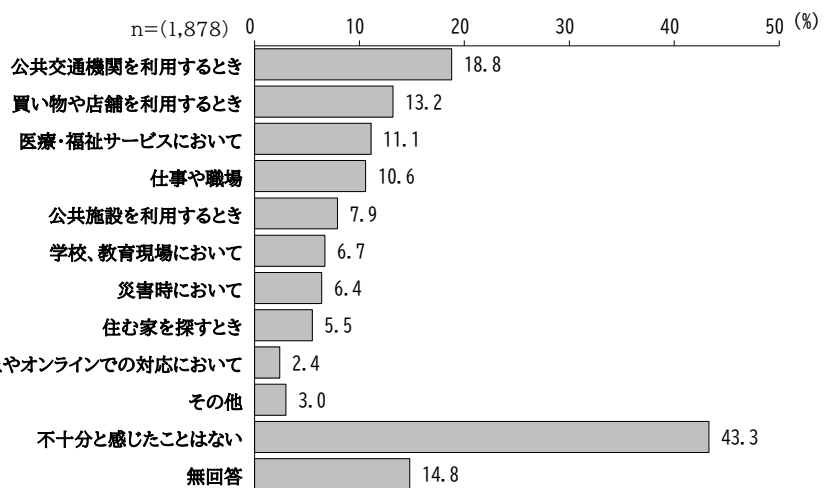
○障害者差別解消法を「知っている」は12.1%、「聞いたことはある」は20.4%となり、両者をあわせた《認知》は32.5%となっている。

○合理的配慮が不十分だと感じる場面があるかを聞いたところ、「不十分と感じたことはない」が43.3%と多くなっている。感じたことがある場面では、「公共施設や交通機関を利用するとき」、「買い物や店舗を利用するとき」、「医療・福祉サービスにおいて」、「仕事や職場」が1割台となっている。

<障害者差別解消法の認知状況>



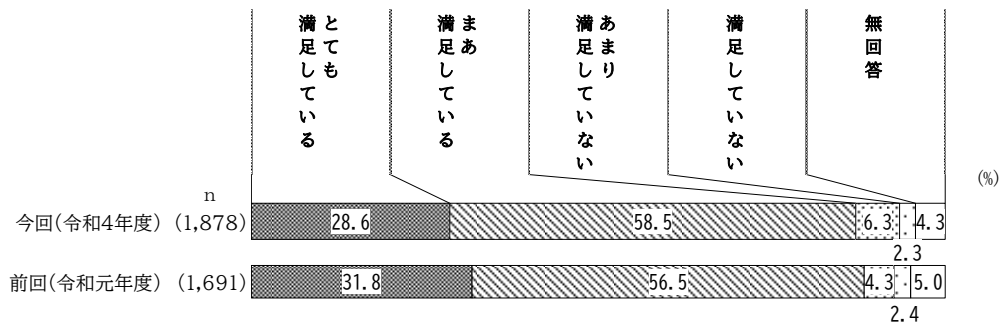
<合理的配慮が不十分だと感じる場面>



11) 今後のことについて

○武蔵野市での暮らしに「とても満足している」は28.6%で、「まあ満足している」をあわせた《満足している》は87.1%となっている。《満足していない》は8.6%となっている。

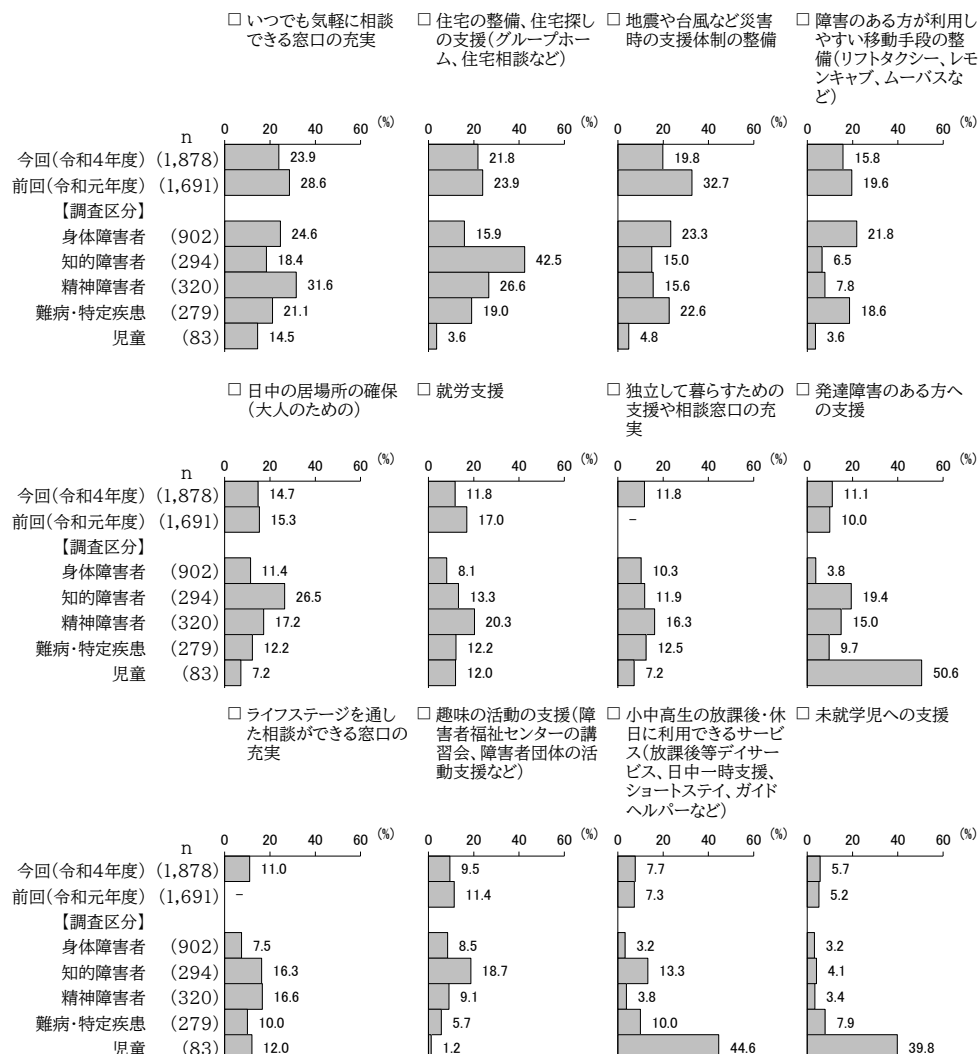
<武蔵野市での暮らしの満足度>



12) 施策の要望

○施策要望では、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「住宅の整備、住宅探しの支援」が2割台で多く、以下、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」、「障害のある方が利用しやすい移動手段の整備」、「日中の居場所の確保」、「就労支援」、「独立して暮らすための支援や相談窓口の充実」、「発達障害のある方への支援」、「ライフステージを通じた相談ができる窓口の充実」が1割台で続いている。

<施策要望>



武蔵野市 市民の健康づくりに関するアンケート調査の報告 【速報版】

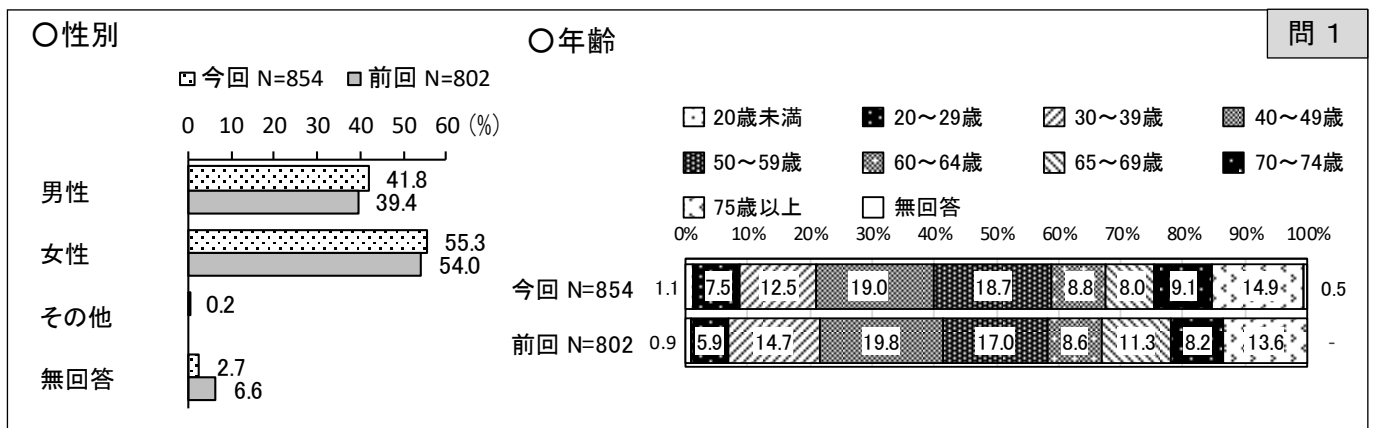
1 調査の概要

- ◇調査目的 武蔵野市健康推進計画・食育推進計画等の見直し（令和5年度）にあたり、市民の健康づくりや食育に関する意識や関心、ニーズ等を把握し、検討のための基礎資料とするため実施した。
- ◇調査対象者 武蔵野市内に住所を有する18歳以上の市民2,000名（令和4年10月1日時点、無作為抽出）
- ◇調査期間 令和4年11月1日から11月25日まで
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収またはWEB回答併用（督促を兼ねたお礼状を1回発送）
- ◇回収状況 配布数：2,000件、回収数：854件、回収率：42.7%（前回調査（平成28年）：40.1%）
※郵送：27.4%、WEB：15.3%

2 結果の概要

※前回・・・平成28年調査

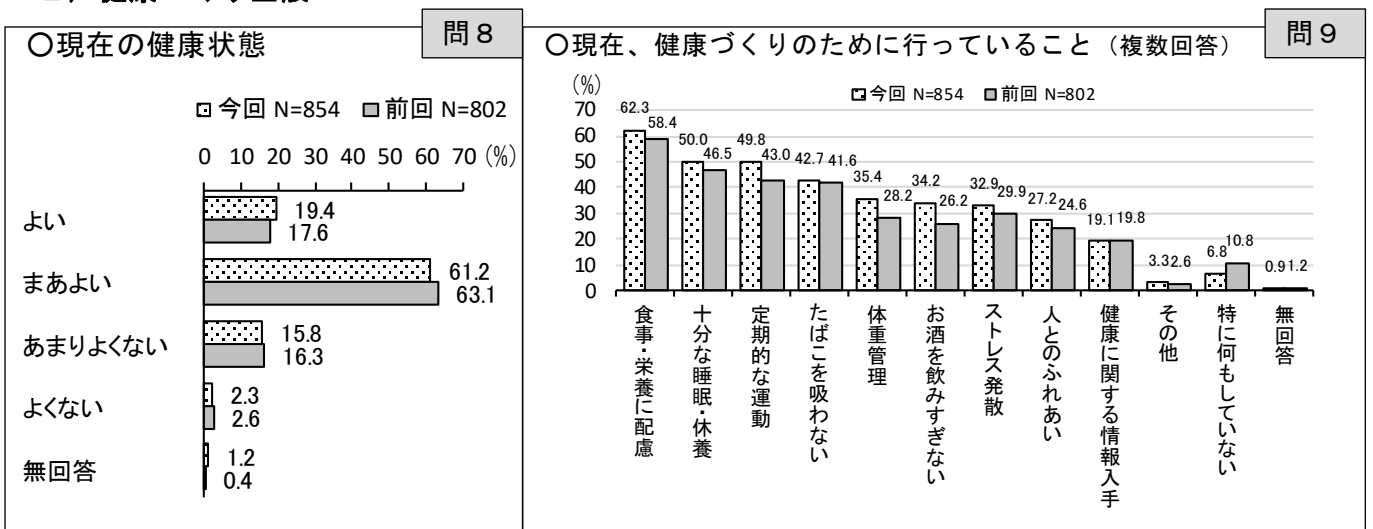
1) 回答者属性



◇回答者の性別は、「女性」が55.3%、「男性」が41.8%である。

回答者の年齢は、30～59歳で50.2%と半数を占める。

2) 健康づくり全般

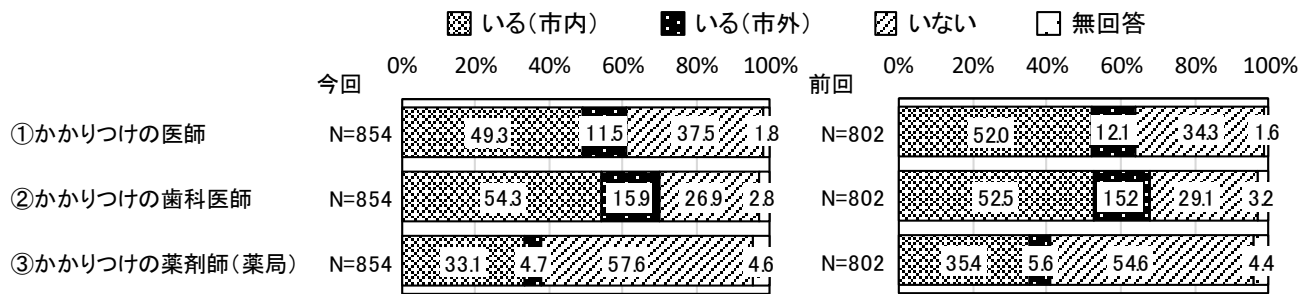


◇現在の健康状態は、『よい』（「よい」＋「まあよい」）が80.6%である。

◇健康づくりのためにやっていることは、「食事・栄養に配慮」が62.3%と最も多く、「十分な睡眠・休養」（50.0%）、「定期的な運動」（49.8%）、「たばこを吸わない」（42.7%）と続いている。

○かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師の有無

問 10

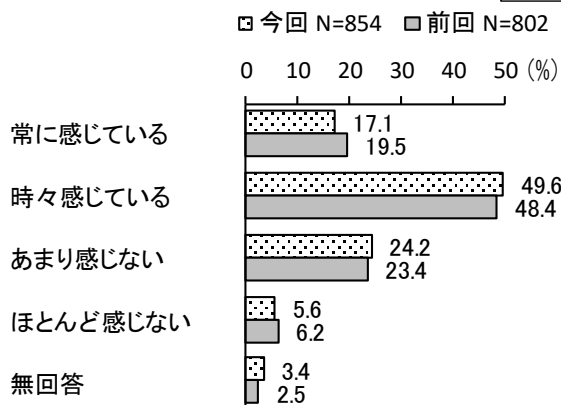


◇かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師が、「いる(市内)」は医師が 49.3%、歯科医師が 54.3%、薬剤師が 33.1%となっている。

3) 休養・こころの健康

○悩みやストレスを感じることもあるか

問 27

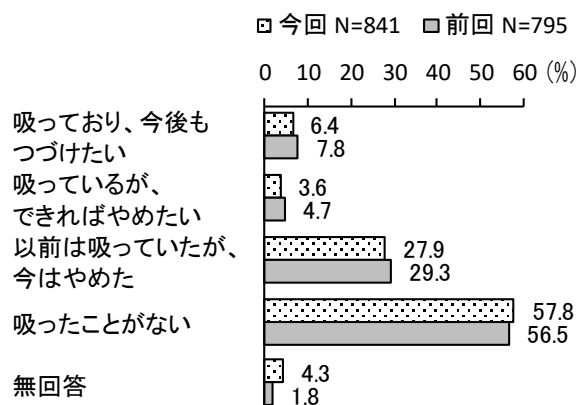


◇悩みやストレスを感じることもあるかでは、『感じている』(「常に感じている」+「時々感じている」)が 66.7%である。

4) 喫煙の状況等

○現在の喫煙状況【20歳以上の方のみ】

問 30

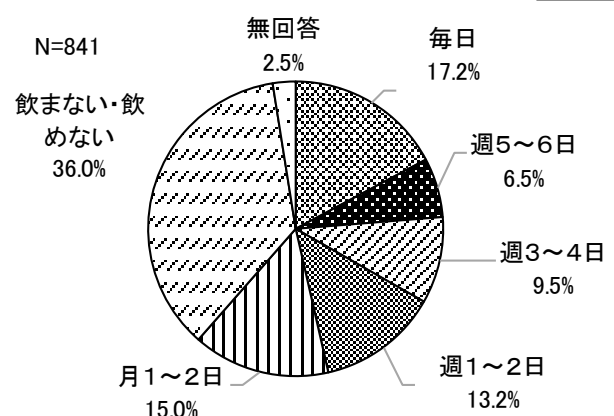


◇現在の喫煙状況は、非喫煙者が 85.7%で、喫煙者は 10.0%である。

5) 飲酒の状況等

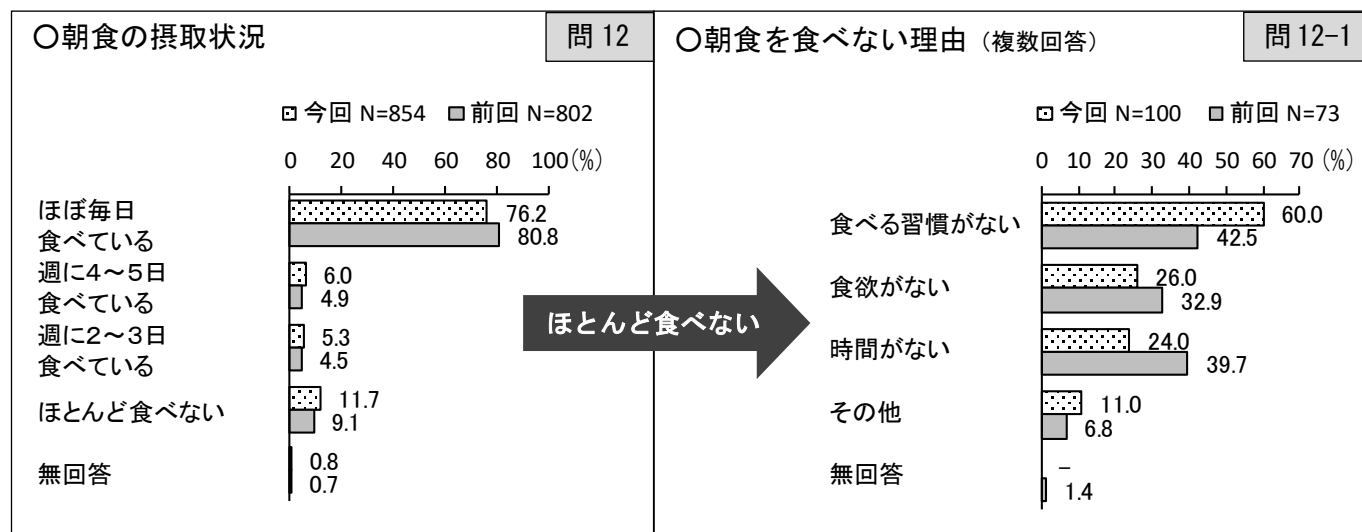
○現在の飲酒状況【20歳以上の方のみ】

問 32



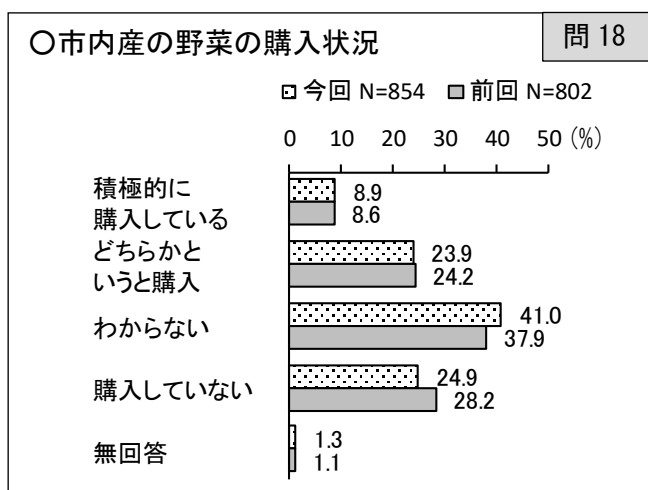
◇現在の飲酒状況は、週1日以上飲酒する人は 46.4%で、うち「毎日」は 17.2%である。一方、飲まない・飲めない人は 36.0%である。

6) 日頃の食生活

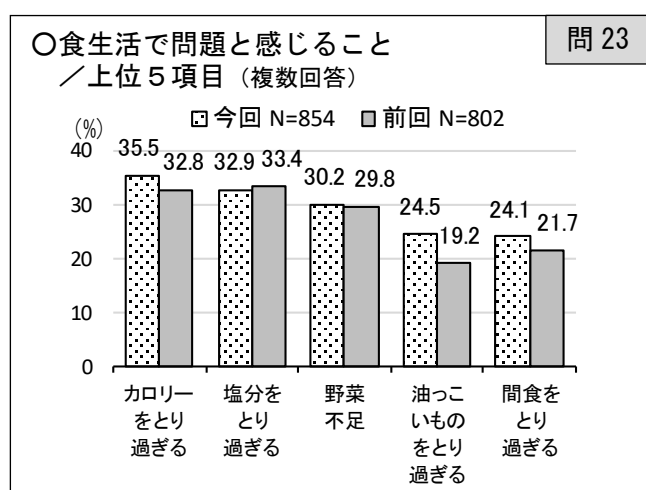


◇朝ごはんを「ほぼ毎日食べている」は76.2%、週に6日未満(「週に4～5日食べている」+「週に2～3日食べている」+「ほとんど食べない」)は23.0%である。

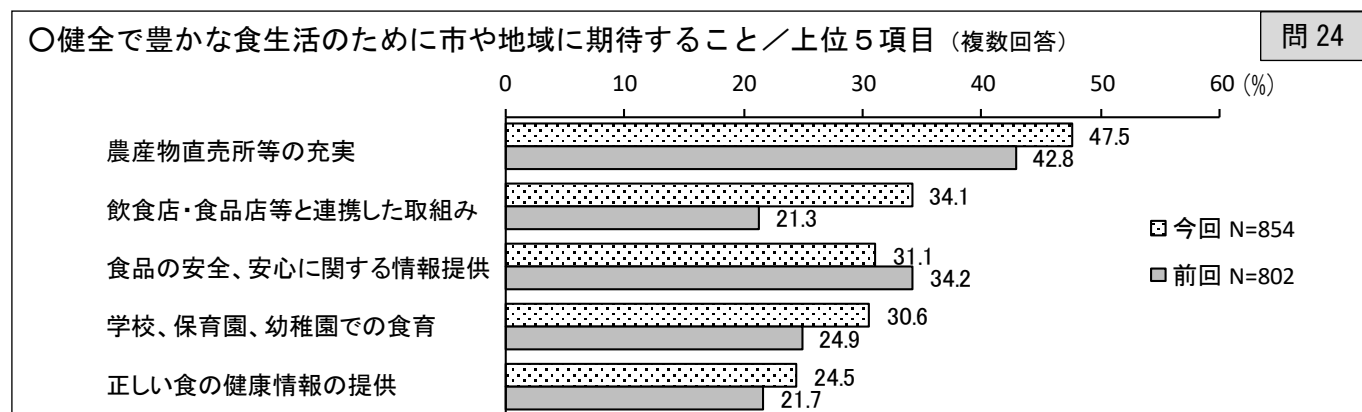
◇朝食を食べない理由は、「食べる習慣がない」が60.0%と最も多い。



◇市内産の野菜を『購入している』(「積極的に購入している」+「どちらかというと購入している」)は32.8%である。

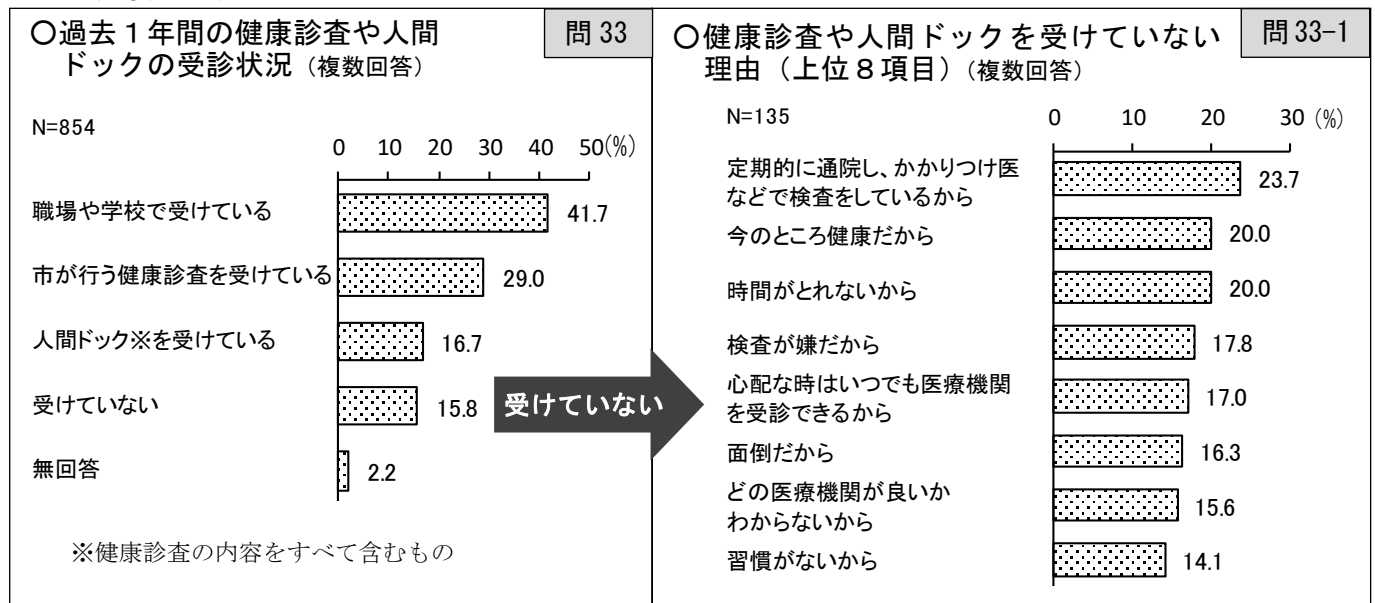


◇食生活で問題と感ずることは、「カロリーをとり過ぎる」(35.5%)、「塩分をとり過ぎる」(32.9%)、「野菜不足」(30.2%)が3割台で続いている。



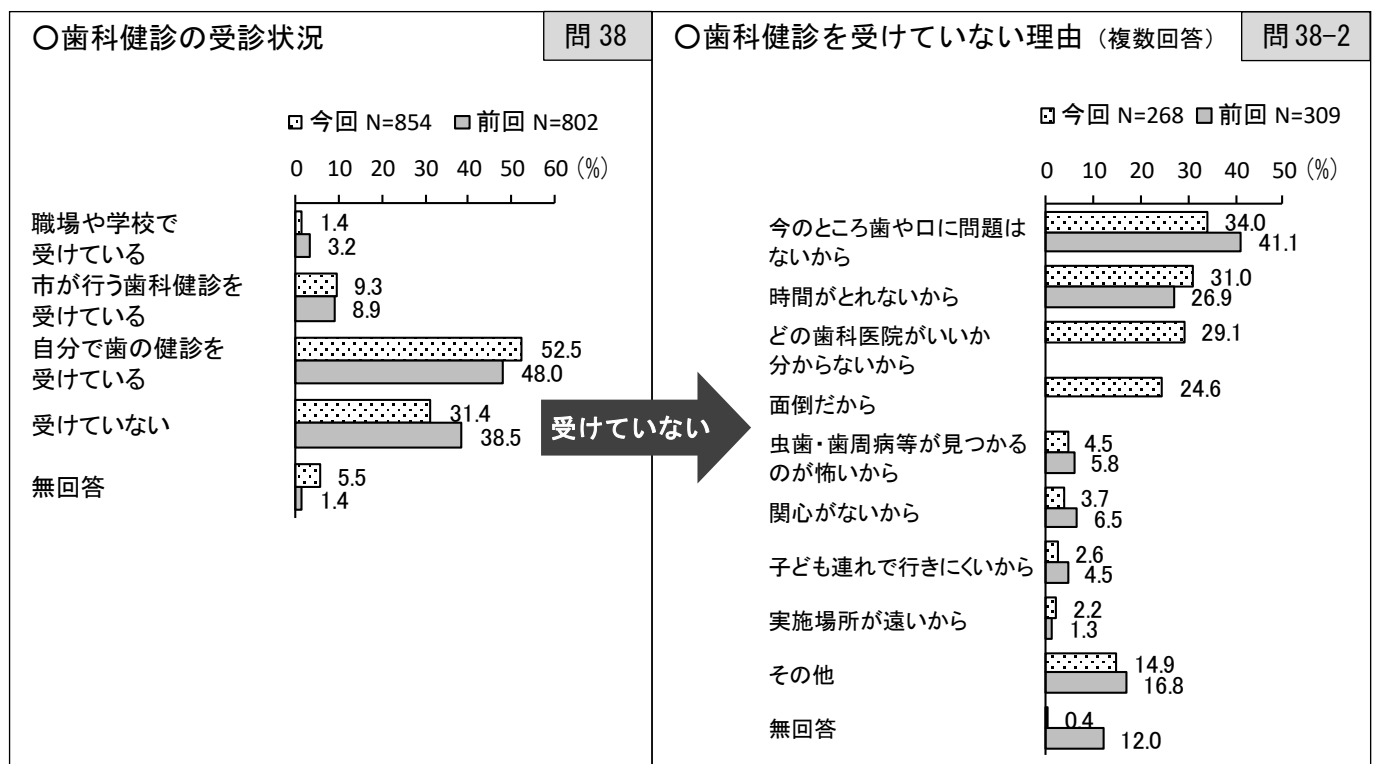
◇健全で豊かな食生活のために市や地域に期待することは、「農産物直売所等の充実」が47.5%と最も多く、「飲食店・食品店等と連携した取組み」が34.1%で続いている。

7) 健康診査等



◇過去1年間の健康診査や人間ドックの受診状況は、「職場や学校で受けている」が41.7%と最も多く、「市が行う健康診査を受けている」が29.0%、「人間ドックを受けている」が16.7%で続いている。

◇受けていない理由は、「定期的に通院し、かかりつけ医などで検査をしているから」が23.7%で最も多い。



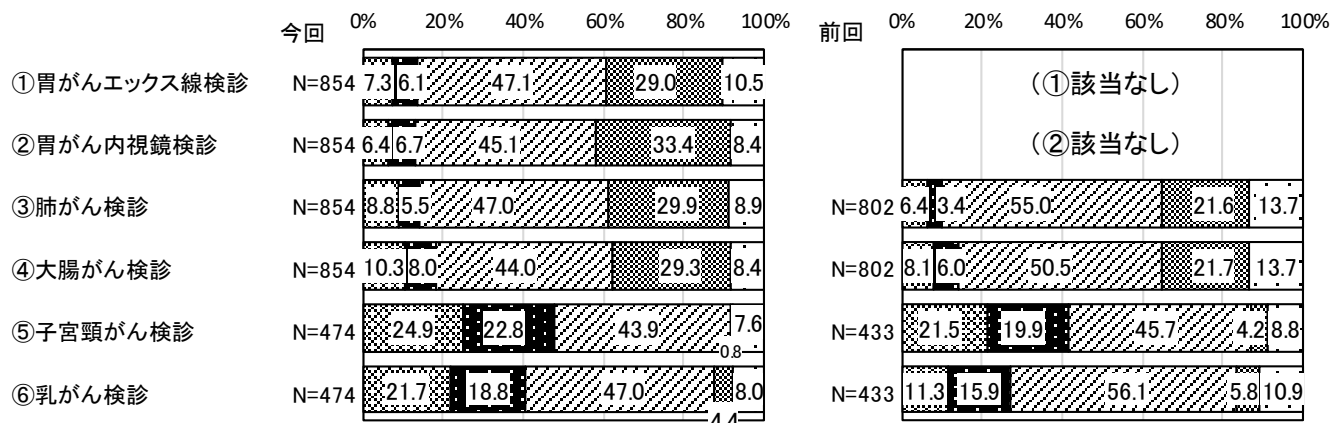
◇定期的な歯科健診を『受診している』（「自分で歯の健診を受けている」＋「市が行う歯科健診を受けている」＋「職場や学校で受けている」）は63.2%である。

◇受けていない理由は、「今のところ歯や口に問題はないから」が34.0%と最も多く、「時間がとれないから」が31.0%で続いている。

○各種がん検診の認知・受診頻度

問 35

定期的に受診している
 ときどき受診している
 知っているが、受診したことはない
 知らない
 無回答



◇各種がん検診の認知・受診頻度は、いずれの検診においても「知っているが、受診したことはない」が4割台と最も多い。「定期的に受診している」は⑤子宮頸がん検診及び⑥乳がん検診で2割台と他の検診より多くなっている。

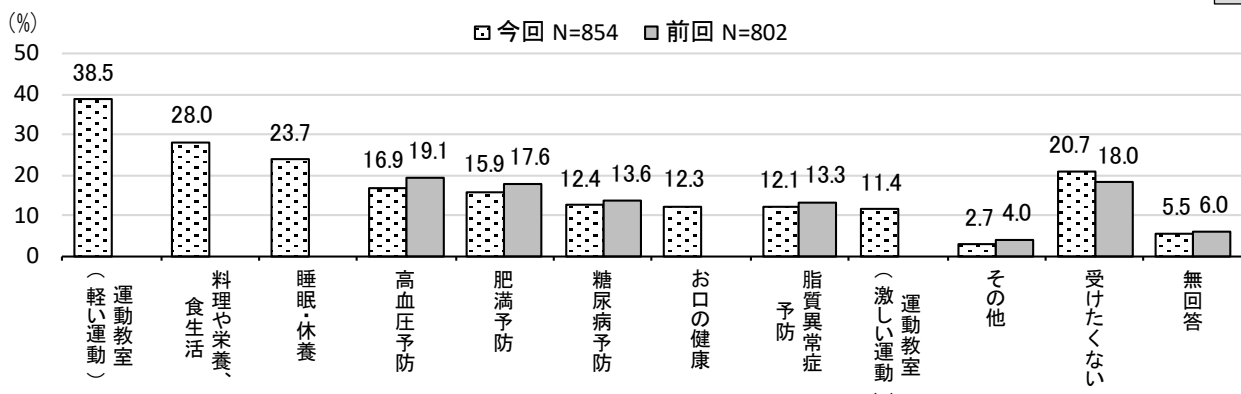
知っているが、
受診したことはない

○受診しない理由／上位3項目（複数回答）

	1位	2位	3位
①胃がんエックス線検診	人間ドックを受けているから (24.6%)	職場の検診を受けているから (20.9%)	今のところ健康だから (18.2%)
②胃がん内視鏡検診	人間ドックを受けているから (21.0%)	今のところ健康だから (19.0%)	対象年齢でないから (17.4%)
③肺がん検診	人間ドックを受けているから (23.4%)	職場の検診を受けているから (20.7%)	今のところ健康だから (20.4%)
④大腸がん検診	人間ドックを受けているから (24.2%)	今のところ健康だから (19.7%)	職場の検診を受けているから (18.1%)
⑤子宮頸がん検診	今のところ健康だから (23.1%)	検査が嫌だから (23.1%)	職場の検診 (16.8%) 人間ドック (16.8%)
⑥乳がん検診	対象年齢でないから (20.6%)	今のところ健康だから (15.7%)	人間ドックを受けているから (15.7%)

○参加したい生活習慣改善講座（複数回答）

問 34

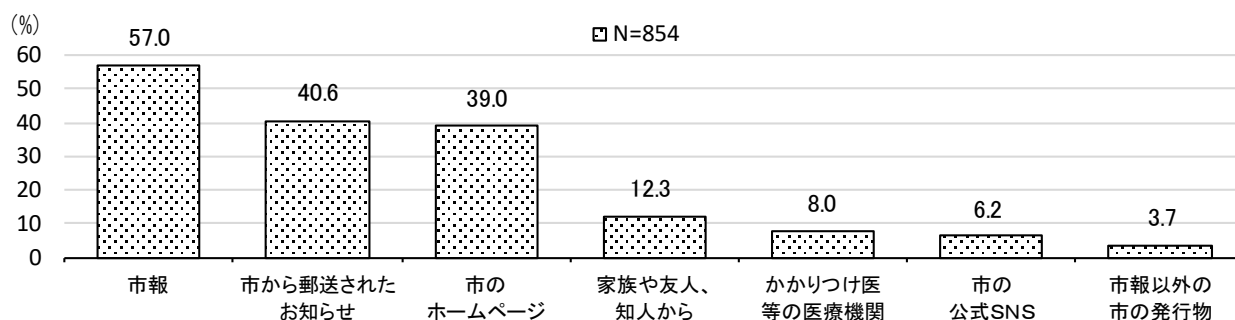


◇参加したい生活習慣改善講座は、「運動教室（軽い運動）」が38.5%で最も多く、「料理や栄養、食生活」が28.0%で続いている。

8) 感染症に関する危機管理

○市が実施する新型コロナウイルスワクチン接種事業についての情報収集方法／上位7項目（複数回答）

問 43

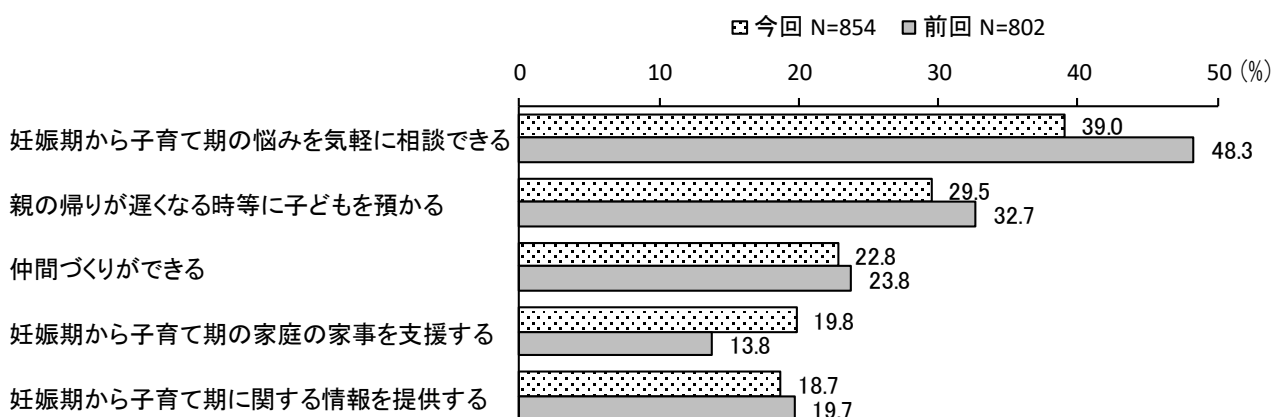


◇市が実施する新型コロナウイルスワクチン接種事業についての情報収集方法は、「市報」が57.0%で最も多く、「市から郵送されたお知らせ」が40.6%、「市のホームページ」が39.0%で続いている。

9) 子育て支援

○子育て家庭を支えるための施策／上位5項目（複数回答）

問 44

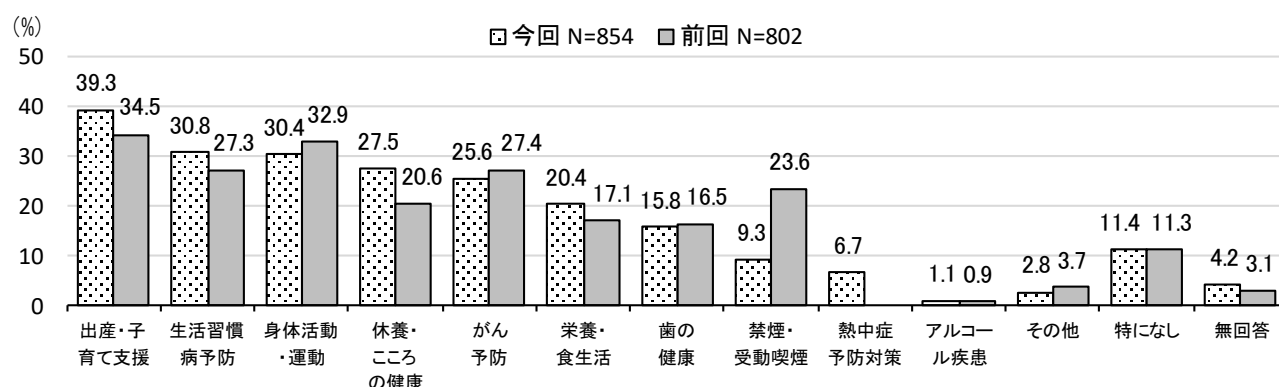


◇子育て家庭を支えるためにあると思う施策は、「妊娠期から子育て期の悩みを気軽に相談できる」が39.0%で最も多く、「親の帰りが遅くなる時等に子どもを預かる」が29.5%で続いている。

10) 市の健康づくり施策

○市に重点的に取り組んで欲しい項目（複数回答）

問 48



◇市に重点的に取り組んで欲しい項目は、「出産・子育て支援」が39.3%と最も多く、「生活習慣病予防」、「身体活動・運動」が3割台、「休養・こころの健康」、「がん予防」、「栄養・食生活」が2割台で続いている。

妊娠届出書、乳幼児健診票の集計の報告 【速報版】

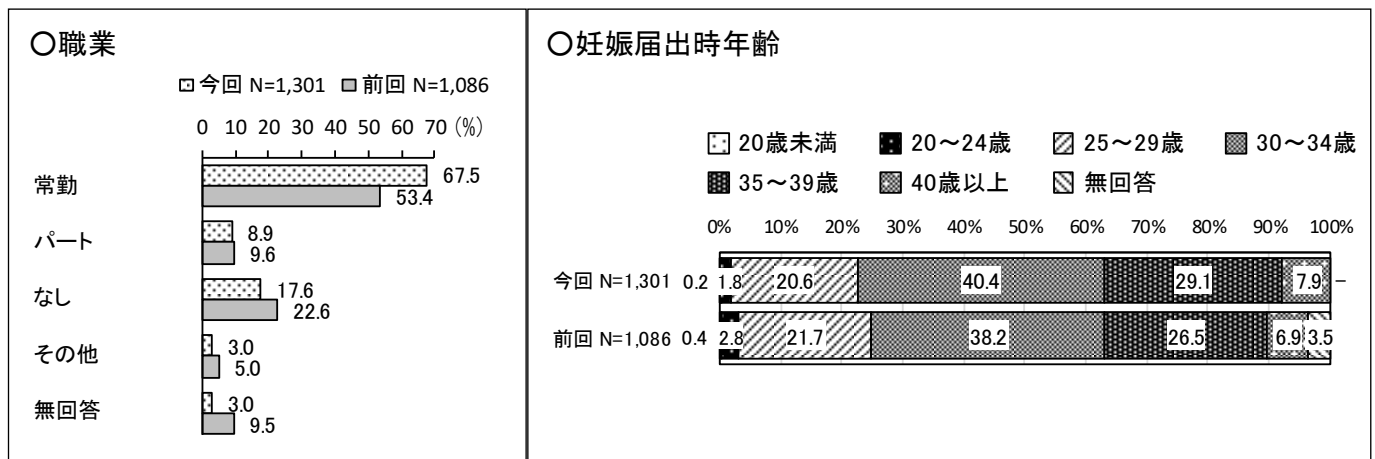
1 調査の概要

- ◇調査目的 武蔵野市健康推進計画・食育推進計画等の見直し（令和5年度）にあたり、妊婦及び乳幼児（保護者）の現状や意識を把握し、検討のための基礎資料とするため実施した。
- ◇調査対象者 妊婦、3～4か月児健診・1歳6か月児健診・3歳児健診を受診した乳幼児の保護者
- ◇調査期間 令和3年4月から令和4年3月までの妊娠届出時、
令和3年4月から令和4年3月までに実施された乳幼児健診時
- ◇調査方法 妊娠届出書、乳幼児健診票に記載された内容をもとに分析
- ◇回収状況 妊娠届出書：1,301件、乳幼児健診票：3,142件（3～4か月児：1,074件、1歳6か月児：1,060件、3歳児：1,008件）

2 結果の概要

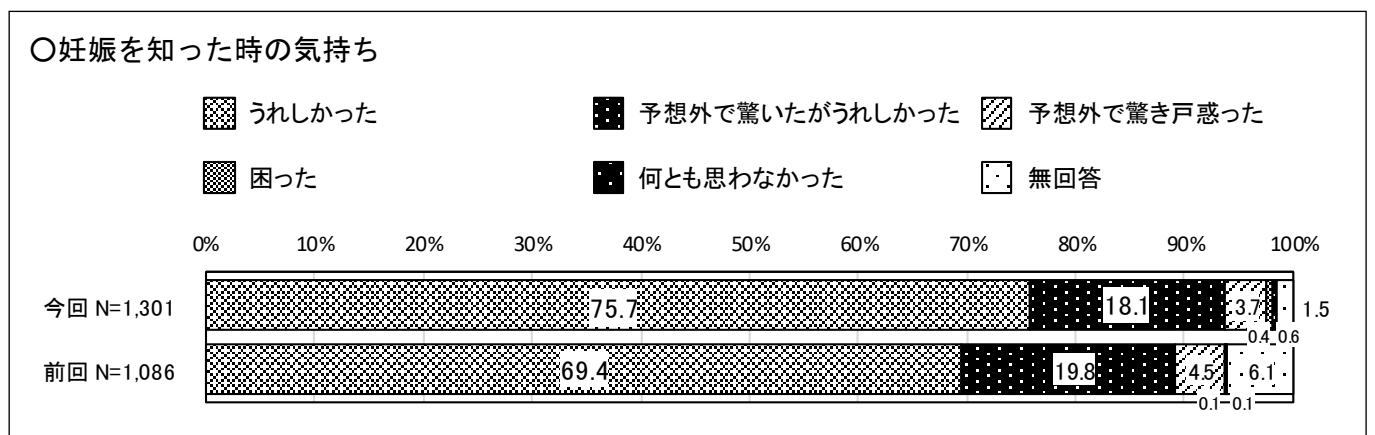
※前回・・・平成28年調査

1) 妊婦



◇職業は、「常勤」が67.5%、「パート」が8.9%で、勤務している人は76.4%となっている。

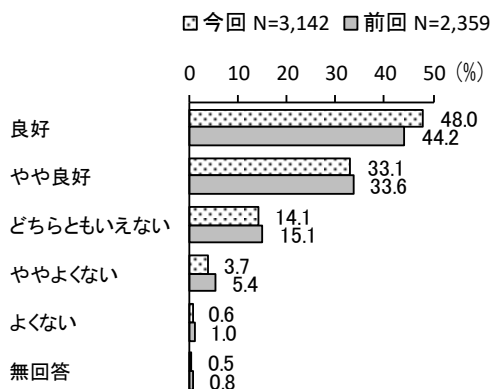
◇妊娠届出時年齢（母親）は、『30歳代』（「30～34歳」＋「35～39歳」）が69.5%、『20歳代』（「20～24歳」＋「25～29歳」）が22.4%である。



◇妊娠を知った時の気持ちは、『うれしかった』（「うれしかった」＋「予想外で驚いたがうれしかった」）が93.8%を占めている。

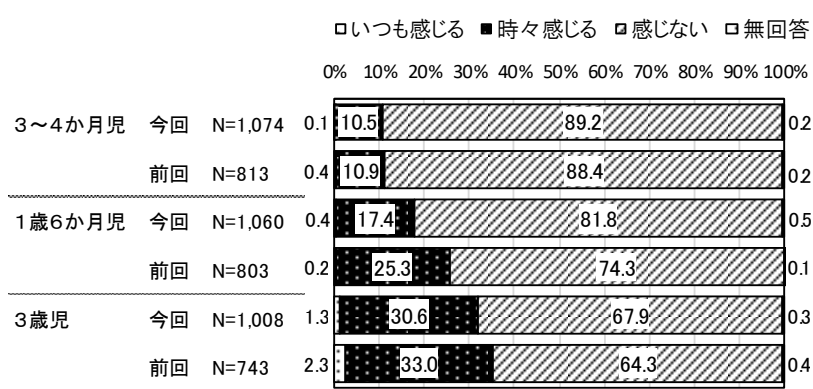
2) 乳幼児保護者

○最近の心身の調子



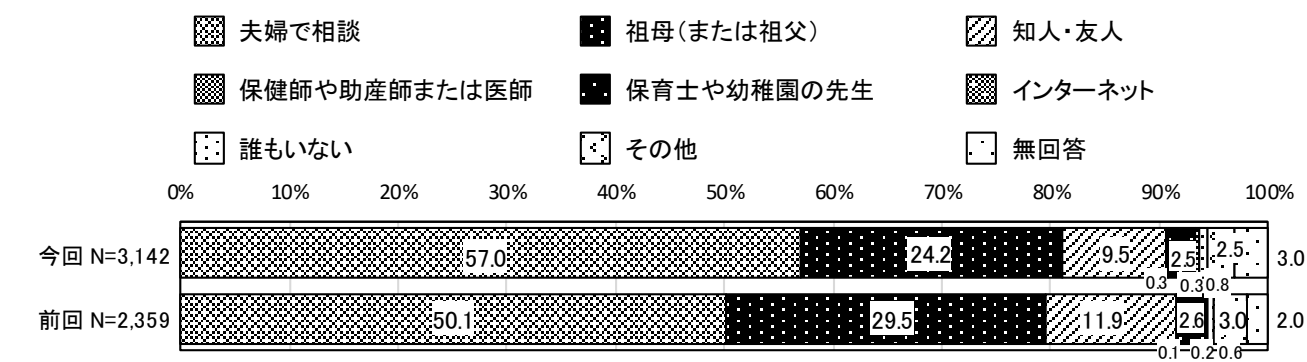
◇最近の心身の調子は、『良好』（「良好」＋「やや良好」）が 81.1%である。

○育てにくさを感じる



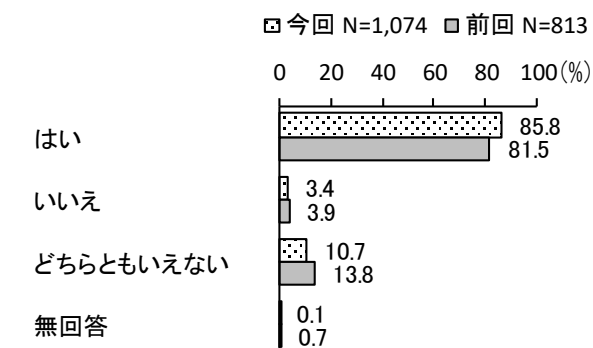
◇育てにくさを『感じる』（「いつも感じる」＋「時々感じる」）は 3～4か月児で 10.6%であるが、子どもの成長につれて育てにくさを感じている人が増え、3歳児では 31.9%となっている。

○日常の育児の相談相手



◇日常の育児の相談相手は、「夫婦で相談」が 57.0%と最も多く、「祖母（または祖父）」が 24.2%で続いている。

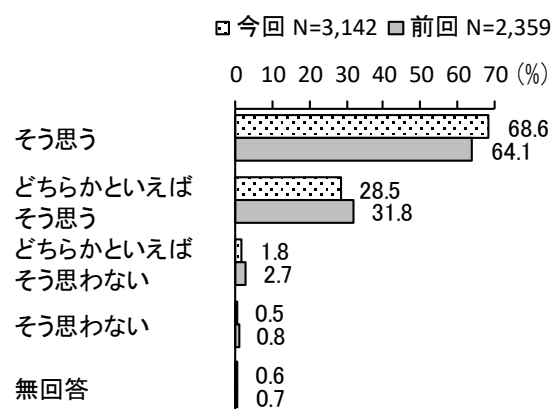
○助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができたか



※ 3～4か月児保護者のみ

◇助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けた（「はい」）は 85.8%、一方、受けていない（「いいえ」）は 3.4%である。

○この地域で今後も子育てをしていきたいか



◇この地域での子育て希望は、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 97.1%である。